

道の駅かみおか再整備事業基本計画

2025（令和7）年9月

秋田県大仙市

目次

はじめに.....	1
1章 現況整理	2
1-1 道の駅かみおか	2
1-2 大仙市.....	7
1-3 道の駅の動向	16
2章 敷地条件	19
2-1 敷地の関係法令	19
2-2 整備候補地の比較	20
3章 本計画の位置づけ.....	21
3-1 本計画の位置づけ	21
3-2 上位関連計画	21
4章 意向調査	25
4-1 調査概要.....	25
4-2 調査結果.....	26
5章 道の駅かみおか再整備方針	31
5-1 導入機能.....	31
5-2 導入施設の整備方針.....	35
5-3 規模算定.....	40
6章 基本計画図	45
6-1 ゾーニング図	45
6-2 基本計画図.....	47
7章 事業手法	49
7-1 基本事項・考え方の整理.....	49
7-2 事業手法及び整備効果の検討	50
7-3 今後の検討課題の整理.....	55
8章 事業実施に向けて.....	56
8-1 概算費用.....	56
8-2 スケジュール	61
8-3 整備に向けた留意点.....	61

はじめに

大仙市神岡地域にある「道の駅かみおか」は、1996（平成8）年6月28日に県内7番目、国道13号沿いでは県内初の道の駅として開駅し、多くの方々から利用される大仙市の重要な観光拠点となっています。一方、開駅から29年が経過し、施設・設備の経年劣化が顕在化しており、また、物産販売エリアやレストランスペースが手狭であることに加え、駐車可能台数も他の道の駅と比較して大幅に少なく、地域振興機能・休憩機能ともに利用者が道の駅に求めるニーズにマッチしていない状況となっています。

また、道の駅は全国で1,230駅（2025（令和7）年6月現在）あり、1993（平成5）年4月の「道の駅」第1回登録で103箇所が誕生してから現在まで、社会情勢の変化やニーズの多様化、秋田自動車道の開通等交通ネットワーク整備の進展、インバウンド需要の高まりなど、道の駅かみおかを含めた道の駅を取り巻く環境は大きく変化しています。

道の駅が担う「休憩機能」、「情報発信機能」、「地域連携機能」、災害時や非常時における「防災機能」は、今後もその役割は増していくものと思料されるほか、現在では、道の駅そのものが観光目的の一つであり、「地方創生・観光を加速する拠点」（第3ステージ）と位置づけられるなど、その重要性もますます高まっています。

こうした背景から今般、道の駅かみおかの施設の魅力や利便性の向上を図り、交流人口の拡大、賑わいの創出に寄与することを目的とした「道の駅かみおか再整備事業基本構想」（以下「基本構想」という。）を2024（令和6）年に策定しました。

「道の駅かみおか再整備事業基本計画」（以下「本計画」という。）は、この基本構想を踏まえ、利用者のニーズと今後の道の駅のあり方を十分に捉え、大仙市の重要な観光拠点として、持続的な施設運営を可能とするための整備方針、導入施設及び規模等の基本的な内容を整理するものです。

1 章 現況整理

1 - 1 道の駅かみおか

(1) 施設概要

道の駅かみおかは、国道 13 号沿いに 1994（平成 6）年度に神岡町山村振興等農林漁業特別対策事業として整備されたもので、「神岡生産物直売・食材供給施設（神岡物産館）」及び「農林水産物処理加工施設」が 1996（平成 8）年度に開駅しました。

表 道の駅かみおかの概要

名称	大仙市神岡生産物直売・食材供給施設
所在地	大仙市北檜岡字船戸 187 番地
開駅日	1996（平成 8）年 6 月 28 日 県内 7 番目、国道 13 号沿線初
敷地面積	17,456.36 m ² （加工所含む）
延床面積	748.64 m ² （生産物直売・食材供給施設等 549.89 m ² 、休憩所・トイレ 198.75 m ² ）
構造	木造 2 階建
主な施設	神岡物産館、屋台市場、農産物直売所、情報発信・休憩施設、トイレ、 駐車場（小型車 37 台、身障者 2 台、大型車 14 台）、農林水産物処理加工施設
特徴	国道 13 号沿いにある同駅は、ドライバーの休憩空間として利便性が高く、市内外の多くの方から利用されています。前面道路である国道 13 号（旧羽州街道）には日本橋から数えて 133 番目の「一里塚」が道路の両側に現存し、県の指定文化財として歴史的な魅力を有しています。また、地元の「万能つゆ 味どうらくの里」とコラボレーションしたソフトクリーム、「酒まんじゅう」、「俵あげまんじゅう」などの人気商品を取り扱うほか、地元食材を活かした食事メニューを用意するなど、地元産品や特色ある食の提供も魅力となっています。

出典）基本構想

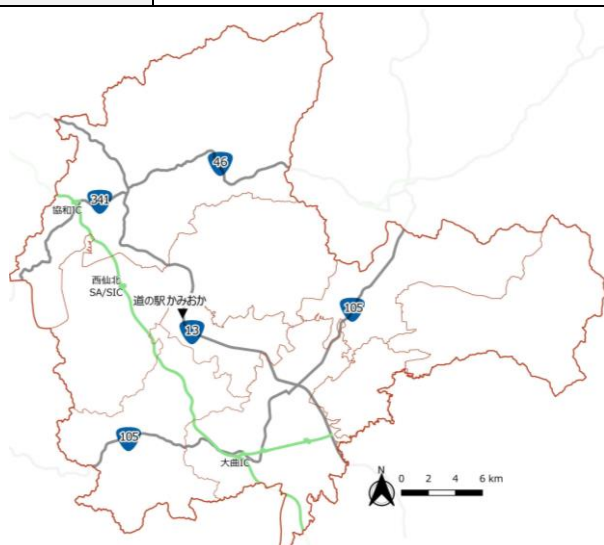


図 位置



図 航空写真

出典）左図：Google 画像©2025Airbus、Maxar Technologies、地図データ©2025 日本



(2) 管理運営

道の駅かみおかは、道路管理者と市町村長等で整備する「一体型」の整備※¹を行っています。道の駅を構成する各施設の供用開始日と現在の運営を以下に示します。

表 管理運営状況

施設名	供用開始	管理運営
神岡物産館	1996（平成8）年6月	指定管理
情報発信・休憩施設	1996（平成8）年6月	管理委託
トイレ	1996（平成8）年6月	管理委託
駐車場	1996（平成8）年6月	国土交通省
農林水産物処理加工施設	1996（平成8）年7月	民営（普通財産貸与）
屋台市場	2001（平成13）年6月	指定管理
農産物直売所	2007（平成19）年5月	民営（JA秋田おばこ婦人部）

出典）基本構想

※1：整備の方法は、道路管理者と市町村長等で整備する「一体型」と市町村で全て整備を行う「単独型」の2種類があります。

(3) 利用状況

1) レジ通過数

2018（平成 30）年度以降のレジ通過数をみると、2019（令和元）年度までは約 11 万人で推移していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大による行動制限等の影響を受け、2020（令和 2）年度は大幅に減少し約 9 万人まで減少しました。その後、徐々に回復し 2024（令和 6）年度には約 15 万人まで増加しています。

施設別のうち「屋台市場」のレジ通過数をみると、2022（令和 4）年度が 47,319 人、2023（令和 5）年度が 81,328 人となっており、約 1.7 倍に増加していることが分かります。メディアで味どころくソフトクリームがとり上げられたことが主な要因として考えられます。

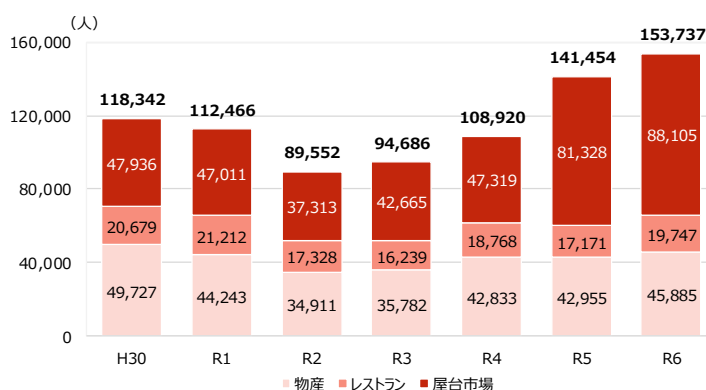


図 施設別のレジ通過数の推移

出典) 大仙市

2) 維持管理費

道の駅かみおかの一般管理費について、2018（平成 30）年度以降の推移をみると、2020（令和 2）年度に新型コロナウイルス感染症拡大による行動制限等の影響を受け、一般管理費も減少しましたが、2024（令和 6）年度には約 4.3 千万円となっています。

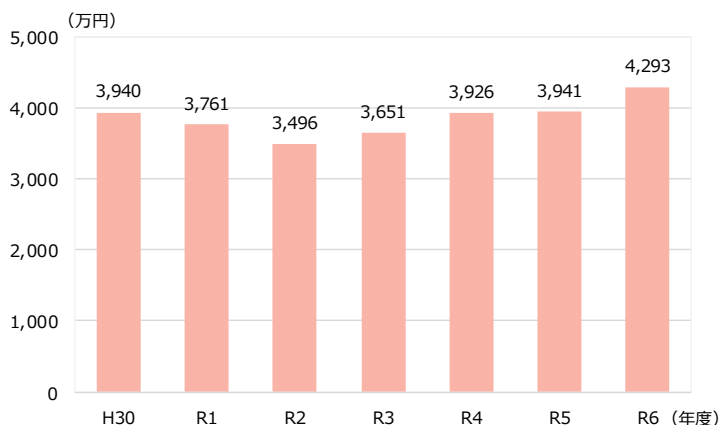


図 一般管理費

出典) 大仙市

一般管理費のうち修繕維持費の推移をみると、約 8～9 年の周期で修繕維持費が増加する傾向にあります。直近 5 年間で平均約 23 万円/年、開駅当初からは平均約 27 万円/年の修繕維持費が発生していることが分かります。

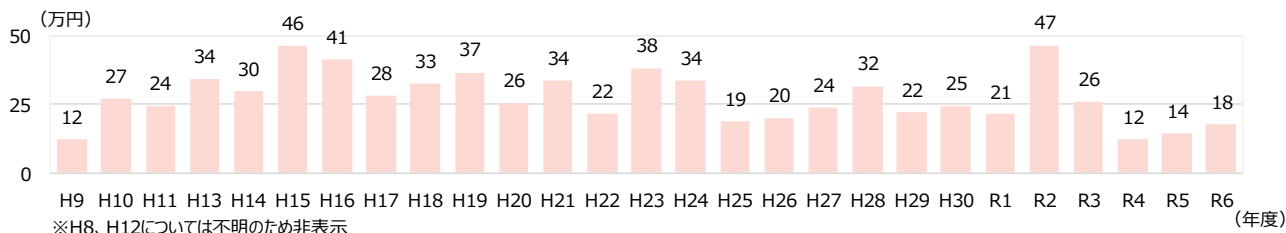


図 修繕維持費

出典) 大仙市

3) 人流分析

KDDI Location Analyzer^{※2}による GPS 位置情報ビッグデータから集計された推測値から、2024（令和 6）年度の道の駅かみおかへの来訪者は合計 186,594 人、1 日あたり 512 人の来訪があると推計されました。

①居住地

来訪者のうち約 4 割が大仙市、約 2 割が秋田市、約 1 割が横手市に居住していると推計され、市民の来訪が多いことが分かります。また、比較的距離のある自治体や高速自動車道沿いの自治体からの来訪があります。

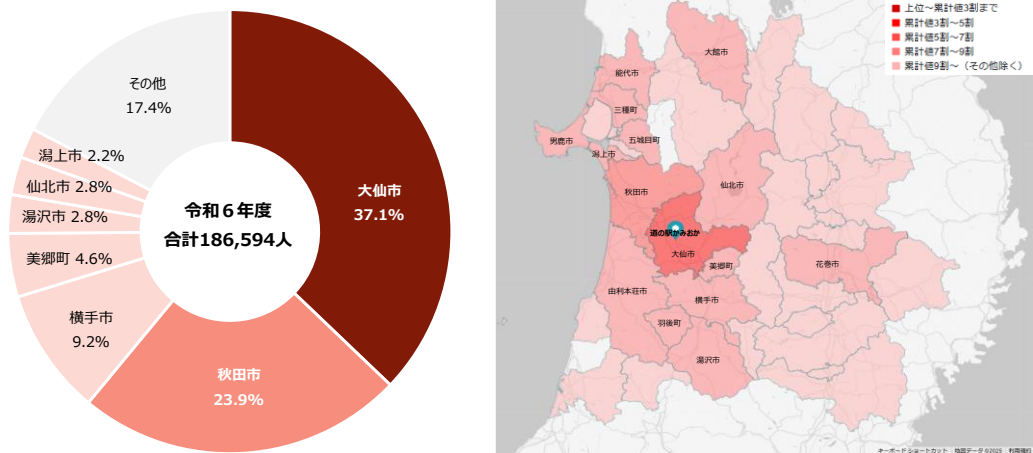


図 2024（令和 6）年度の来訪者の居住地の推計

出典）KDDI Location Analyzer（来訪者居住地分析）

②年齢別

年間の 1 日あたりの来訪者を年齢別にみると、最も多いのは 70 歳以上で 147 人/日、次いで 60 代で 108 人/日、40 代で 101 人/日と推計され、最も少ないのは 20 代で 25 人/日と推計されます。

表 2024（令和 6）年度の年齢別の月別の 1 日あたりの来訪者数の推計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間（R6年度）
20代	50	38	15	26	46	26	25	15	29	8	9	7	25
30代	44	50	45	53	44	50	20	32	17	15	23	43	36
40代	116	117	111	92	106	115	147	91	90	71	77	82	101
50代	123	124	115	103	89	105	102	74	81	77	65	76	95
60代	79	124	104	88	151	136	123	98	116	75	94	103	108
70歳以上	125	128	149	148	209	283	216	174	71	83	67	105	147
全世代	537	581	539	510	645	715	633	484	404	329	335	416	512

出典）KDDI Location Analyzer（来訪者属性分析）

※ 2：KDDI Location Analyzer が提供する集計結果。値は、GPS 位置情報ビッグデータから独自に集計した推測値となっています。設定条件は、「滞在時間 15 分以上」、「全人口推計値（日ユニーク）」となっています。

③居住者・来街者別

1日あたりの時間帯別の居住者・来街者別の来訪状況をみると、居住者は9～15時台と夕方以降の19～20時台が多くなっています。来街者は10～16時台が多く、特に12時台がピークの傾向にあります。

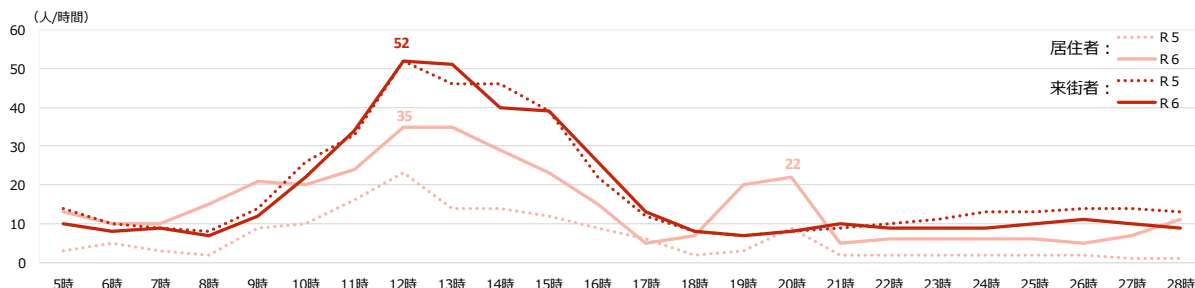


図 居住者・来街者の時間帯別の1日あたりの来訪者数の推計

出典) KDDI Location Analyzer (来訪者属性分析)

月別の1日あたりの居住者・来街者別の来訪状況をみると、年間通して来街者は平均302人、居住者は平均189人となっています。さらに居住者は1～2月の来訪が少ない傾向にあります。

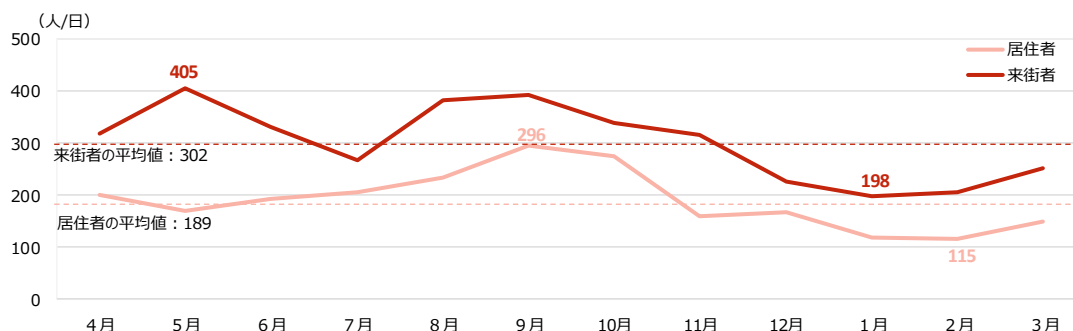


図 2024 (令和6) 年度の居住者・来街者の月別の1日あたりの来訪者数の推計

出典) KDDI Location Analyzer (来訪者属性分析)

4) 商圏人口

道の駅かみおかを中心とした日常利用が見込まれる商圏人口を同心円距離でみると、1km圏内に約300人、3km圏内に約3,000人、5km圏内に約10,000人、10km圏内に約30,000人が居住しています。近距離の居住人口は比較的少ない状況にあります。

年齢3区分別の構成比は、いずれの同心円距離においてもほぼ同様の傾向を示しており、年少人口が約1割、生産年齢人口が約5割、老年人口が約4割となっています。

表 商圏人口

同心円距離	総人口	年少人口	割合	生産年齢人口	割合	老年人口	割合
1km圏内	384	32	8.3%	192	49.6%	163	42.1%
3km圏内	3,580	273	7.6%	1,717	47.9%	1,584	44.6%
5km圏内	10,664	870	8.4%	5,201	49.2%	4,587	42.4%
10km圏内	30,170	2,547	8.6%	14,767	49.1%	12,820	42.3%

※ 3km圏内には1km圏内の数字を含む、以下同様。総人口と年齢3区分の合計は一致しない。

出典) 地理情報システム JSATMAP、R2 年国勢調査

1-2 大仙市

(1) 位置・地勢

大仙市は、2005（平成 17）3 月 22 日に大曲市、神岡町、西仙北町、中仙町、協和町、南外村、仙北町、太田町の 1 市 6 町 1 村が合併して誕生し、面積は 866.79 km²で、東西に約 44.1 km、南北に約 39.7 km広がっています。

また、東北地方を縦断する奥羽山脈を源流とする一級河川の雄物川が北西に、同じく一級河川の玉川が南西に流れ、市域の中央部で合流して日本海に注いでいます。これらの河川沿いには、沖積層からなる広大で肥沃な田園地帯が広がっています。

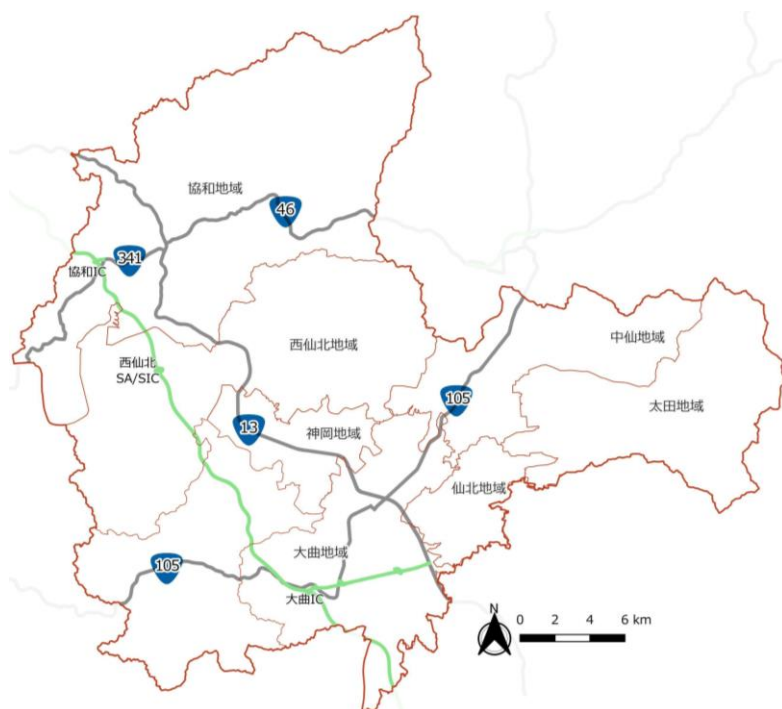


図 位置

市内を南北に縦断する国道 13 号は、南の横手市から北上し、市街地南部から北西方向に折れ、市内西部を経て秋田市へと続く幹線道路です。また、国道 105 号は、市内を東西に横断する幹線道路となっており、両路線とも産業経済上重要な役割を担っています。

さらに、秋田自動車道が市内西部を南北に縦断しており、市内には大曲 IC、西仙北 SA/SIC、協和 IC が設置されています。

(2) 気候

大仙市は寒暖差が大きく典型的な内陸型気候となっています。2024（令和 6）年の年平均気温は 12.4℃、日平均の温度差は 25.8℃となっており、最高気温は 8 月の 34.8℃、最低気温は 1 月の -11.7℃を記録しました。

大仙市は全域が豪雪地帯に指定されており、さらに協和地域は特別豪雪地帯に指定されています。2024（令和 6）年度の記録によると、大仙市における最大降雪深は 31 cm、最大積雪深は 140 cm、降雪日数は 67 日間で、最終的な降雪は 3 月 31 日に観測されました。一方、神岡地域では最大降雪深が 24 cm、最大積雪深が 115 cm、降雪日数が 59 日間であり、最終的な降雪は 3 月 31 日に観測されています。

出典) 気象庁、大仙市

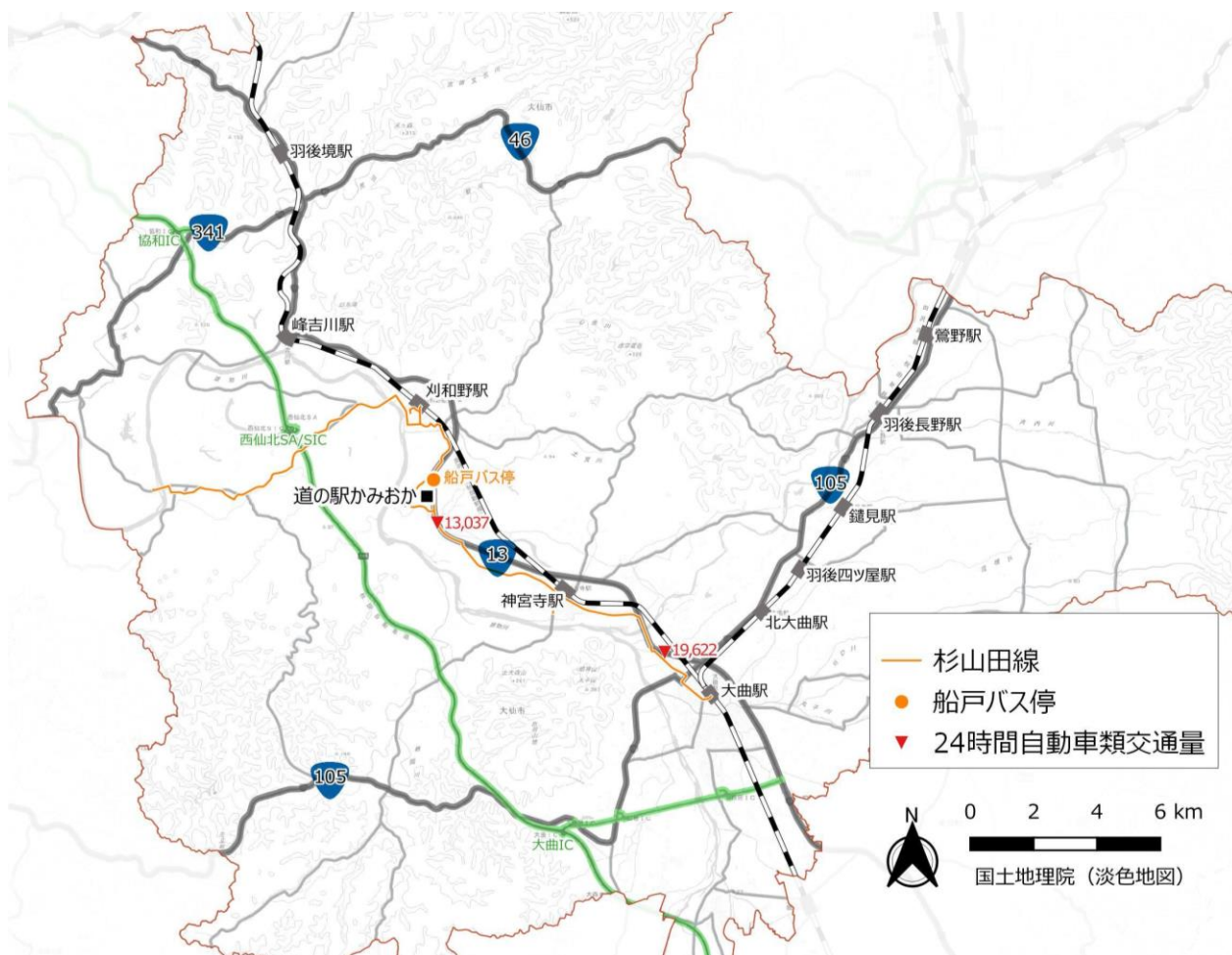
(3) 交通網・公共交通

大仙市の主要道路網の状況は、市内西部を南北に縦断する秋田自動車道、市内をほぼ南北に縦断する国道 13 号、市内北部を横断する国道 46 号と国道 341 号、市内を東西に横断する国道 105 号となっており、これらに主要地方道や一般県道が接続・交差しています。

2021（令和 3）年度の交通量調査で、24 時間自動車類交通量が最も多いのは、国道 13 号の花館字間倉洲崎の地点で 19,622 台となっています。道の駅かみおかの前面道路の 24 時間自動車類交通量は、国道 13 号の北檜岡字高花の地点で 13,037 台となっています。

大仙市は秋田と盛岡・仙台・東京方面を結ぶ秋田新幹線、JR 奥羽本線（市内 5 駅）、JR 田沢湖線（市内 6 駅）が通っており、それぞれ大曲駅で接続しています。

市内には循環バス、市民バス、コミュニティバス、乗合タクシー等の様々な公共交通があり、神岡地域内にはコミュニティバスの杉山田線・南外線、自宅周辺から神岡地域のまちなかへ移動できる乗合タクシードアツードア型が運行しています。道の駅かみおかに最も近い距離にあるバス停は、杉山田線の船戸バス停で約 500m の距離となっています。



(4) 人口動態

2016（平成 28）年度以降の人口推移をみると、減少傾向となっています。2016（平成 28）年度の 83,578 人から 2024（令和 6）年度には 73,217 人となっており、約 1 割減少しています。2016（平成 28）年度以降の世帯数推移をみると、この 10 年間ほぼ横ばいとなっています。

神岡地域は、2024（令和 6）年度の人口 4,486 人、世帯数 1,828 世帯、1 世帯あたりの人員は 2.5 人となっています。

大仙市人口ビジョンによると、2065（令和 47）年の推計人口は 41,485 人となっており、2020（令和 2）年の 77,657 人から約 5 割減少すると試算されています。

2020（令和 2）年の人口分布をみると、大曲駅周辺に人口が集中しています。

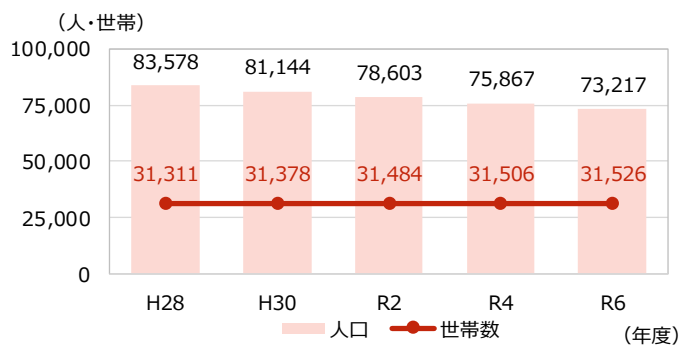


図 人口・世帯数の推移
出典) 住民基本台帳人口・世帯数（各年度 3 月末）

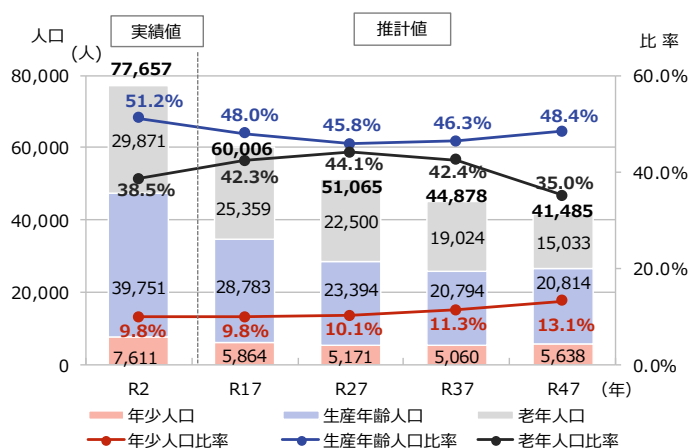


図 年齢3区分別人口及び人口比率の推計
出典) 実績値：R2 国土数値、推計値：大仙市人口ビジョン

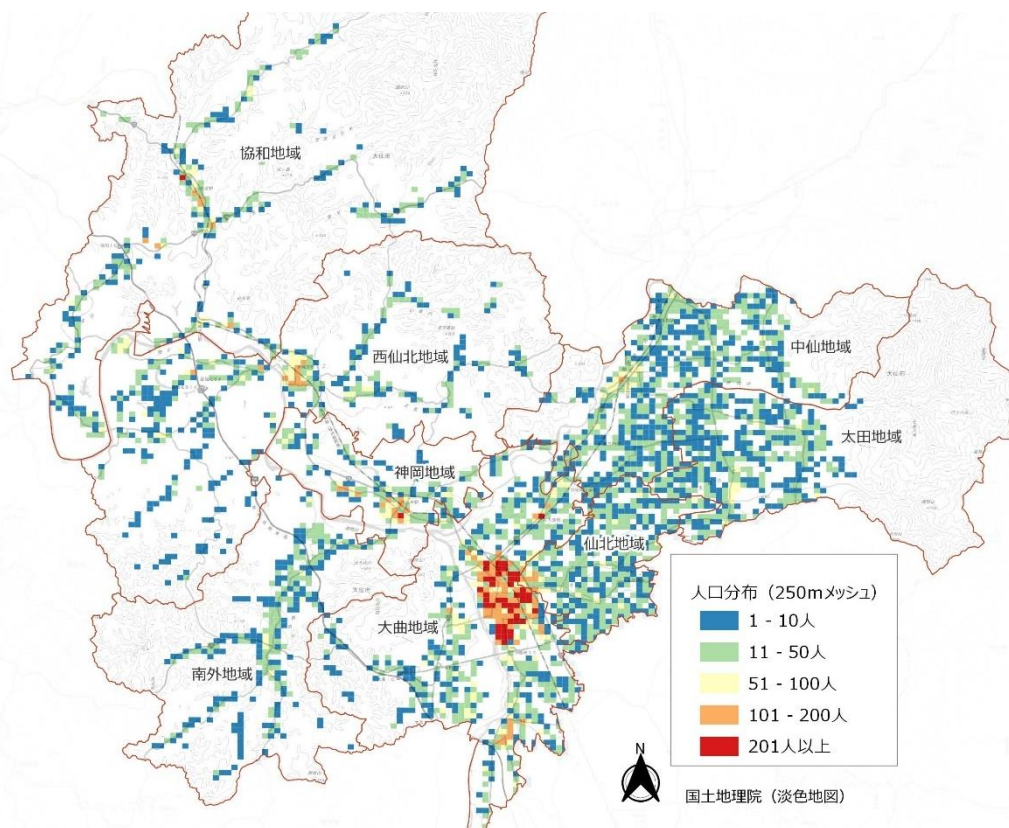


図 人口分布（250mメッシュ）
出典) R2 国土数値

(5) 産業

1) 就業者数

2020（令和2）年における大仙市の就業者数は、計 39,321 人で、第1次産業が約1割、第2次産業が約3割、第3次産業が約6割となっており、秋田県全体と比較すると、第1次産業の割合が高く、第3次産業の割合が低いことが分かります。

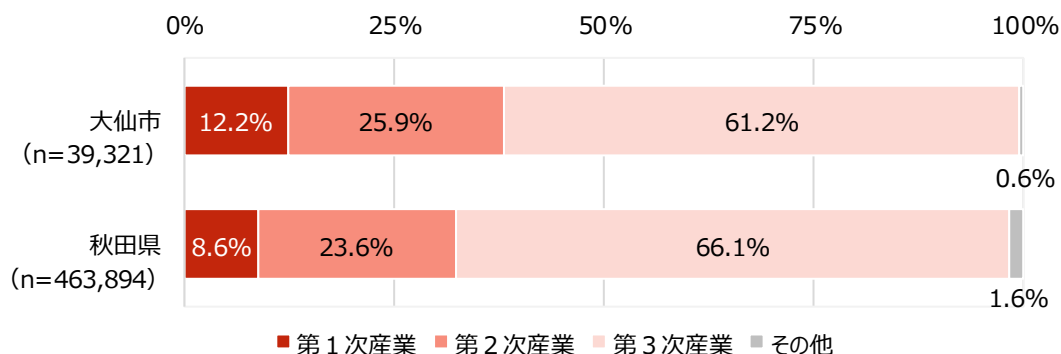


図 大仙市と秋田県の産業3部門別の就業者数の割合

出典) R2 国勢調査

2) 農業

2023（令和5）年における大仙市の農業産出額は合計で 204 億円と推計されており、県内では2位となっています。

部門別の産出額をみると、米が 137.3 億円と最も多く、全体の約7割を占めています。次いで野菜が 29.8 億円で全体の約1割、豚が 18.6 億円、肉用牛が 6.7 億円と推計されています。

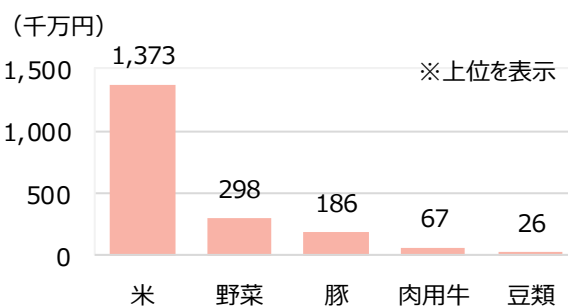
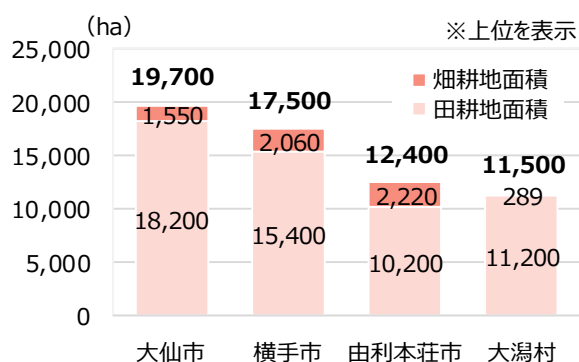


図 農業産出額（推計）

出典) R5 市町村別農業産出額（推計）詳細品目別データ

作物統計調査によると、大仙市は県内で最も総耕地面積※3が広く、その面積は約 1.9 万 ha におよびます。内訳をみると、田耕地面積が約 1.8 万 ha（県内1位）、畑耕地面積が約 0.1 万 ha で（県内4位）となっています。



※公表値のまま表示、合計値が一致しない場合がある

図 県内のうち総耕地面積が多い市町村

出典) R6 作物統計調査

※3：耕地面積は、農業に利用される可能性がある全ての土地の面積を指します。一時的に休耕されている土地や、次の作付のために準備中の土地も含まれます。

（６）観光

2016（平成 28）年以降の大仙市の観光入込客数の推移をみると、2021（令和元）年までは約 260 万人前後で推移していましたが、その後の新型コロナウイルス感染症拡大による行動制限や全国花火競技大会「大曲の花火」の中止などの影響を受け、2020（令和 2）年は約 4 割減の 113 万人まで減少しています。

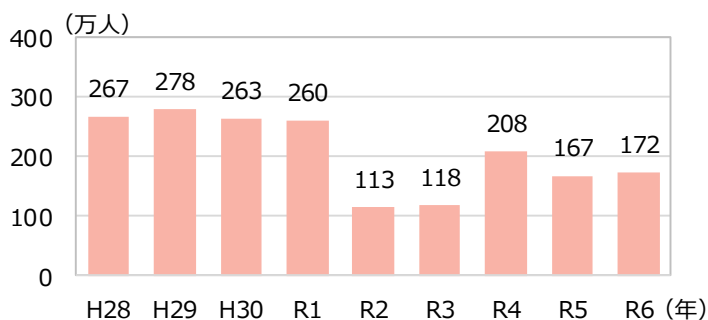


図 観光入込客数の推移

出典) 大仙市オープンデータ

2022（令和 4）年以降の観光入込客数は、「大曲の花火」の観覧者数のカウント方法の見直しなどもあり、直接的な経年比較はできないものの、総じて回復基調を示しています。

大仙市における最大の観光資源は、全国的にも知名度のある全国花火競技大会「大曲の花火」です。「大曲の花火」は、1910（明治 43）年に諏訪神社の祭典の余興として開催された奥羽六県煙火共進会から始まり、100年以上の歴史を持つ日本最高峰の花火競技大会のひとつと称されています。優勝者には内閣総理大臣賞を含む権威ある賞が授与され、開催日の毎年 8 月の最終土曜日には全国から選抜された一流の花火師たちが日本一を目指してその技術を競います。来場者数は雄物川河川敷に設営した観覧席だけで約 10 万人を数え、本市に大きな経済波及効果をもたらす秋田県を代表するイベントのひとつとなっています。また、「大曲の花火」は、夏の大会だけではなく、「大曲の花火 春の章」、「大曲の花火 秋の章」も開催されており、国内外から多くのファンが訪れています。さらに、道の駅かみおかの周辺でも「神岡南外花火大会」が開催されており、神宮寺嶽を背景に夜空を彩る「光と音の祭典」として人気となっています。



全国花火競技大会 「大曲の花火」

競技者それぞれの花火のほか、光と音の饗宴である大会提供花火はまさに圧巻。



大仙市には、「大曲の花火」以外にも、貴重な文化財や歴史ある行祭事、豊かな食文化や特色あるイベントなどが数多くあり、魅力ある観光資源となっています。



国指定名勝 旧池田氏庭園
国指定重要文化財 旧池田家住宅洋館

旧池田氏庭園は庭園としては県内で初めて、国の名勝に指定されました。重要文化財の洋館や高さ4mを誇る大型の雪見灯籠などが配置された庭園内には四季折々の植物が咲き誇り、季節ごとにまったく異なる風景をお楽しみいただけます。



国指定重要無形民俗文化財 刈和野の大綱引き

刈和野の大綱引きは室町時代からの伝習であるといわれています。綱の直径約80センチ、長さは約200メートル、重さ約20トン、日本最大級の大綱は厳寒の2月10日の夜、古式にのっとり、町を二分して数千人により引き合われます。



国指定史跡 払田柵跡

今から約1,200年前の平安時代の初め頃、国家がこの地の統一を進めるために造った、役所と軍事、儀式的役割を持ったといわれている遺跡です。

古文書などには記述が見られず、歴史上の名称が未だ説明されていないなど、多くの謎を秘めた遺跡でもあります。



国指定重要有形文化財 古四王神社

古四王神社本殿は、室町時代末期の元亀元年(1570年)に、孔雀城主である富樫左衛門太郎勝家が、飛騨の名工「甚兵衛」に造らせたといわれている歴史ある神社で、国指定重要文化財となっています。



ドンパン祭り

「ドンパン節発祥の地」である大仙市中仙地域で行われる夏祭り。ドンパン踊りをメインに郷土芸能・民謡・和太鼓の演奏・他地域の伝統芸能も楽しめます。ドンパン踊りの輪には誰でも参加でき、市内外から多くの方々が訪れます。



全県 500 歳・全国 500 歳野球大会

大仙市発祥の全県 500 歳野球大会は、昭和 54 年に始まり、県内から約 180 チームが集まる全国屈指の大規模な大会です。現在は全国大会も開催され、毎年県外から多くのチームが集まります。「出場選手の合計年齢が 500 歳以上」とする独自ルールが人気で、「親父たちの甲子園」とも呼ばれています。



お米（あきたこまちやサキホコレ等）

米づくりに適した気候と水、国内有数の穀倉地帯である仙北平野で育まれたお米です。大仙市で生産されるお米は全国屈指の産出量となっており、本市を代表する産品となっています。



米どころの日本酒

奥羽山脈を望む広大な仙北平野で育まれた米と清らかな水、そして蔵人の伝統の技によって織りなされる逸品です。市内には 6 つの酒蔵があり、東北屈指の酒蔵の数を有しています。



いぶりがっこ

全国屈指の出荷量を誇る「いぶりがっこ」。噛めば噛むほど大根の甘さ、熟成した風味、薫煙の香りが広がり、ぱりぱりとした食感が楽しい一品です。燻製の風味はチーズとの相性もよく、大仙市の銘酒はもちろん、ワインやウイスキーのお供にも抜群で本市を代表する特産品の一つです。



そのほかにも、納豆汁やカレーラーメン、オープンカツ、杜仲豚、三杯もち、酒まんじゅうなど、特色ある「食」資源が豊富にあり、大仙市観光における魅力となっています。

出典) 市ティープロモーションサイト

(7) 周辺の観光地や施設

道の駅かみおかを中心に同心円距離を描くと5 km圏内には神岡中央公園、かみおか温泉嶽の湯、大綱の里（農産物直売所）、西仙北ぬく森温泉ユメリアが立地しています。

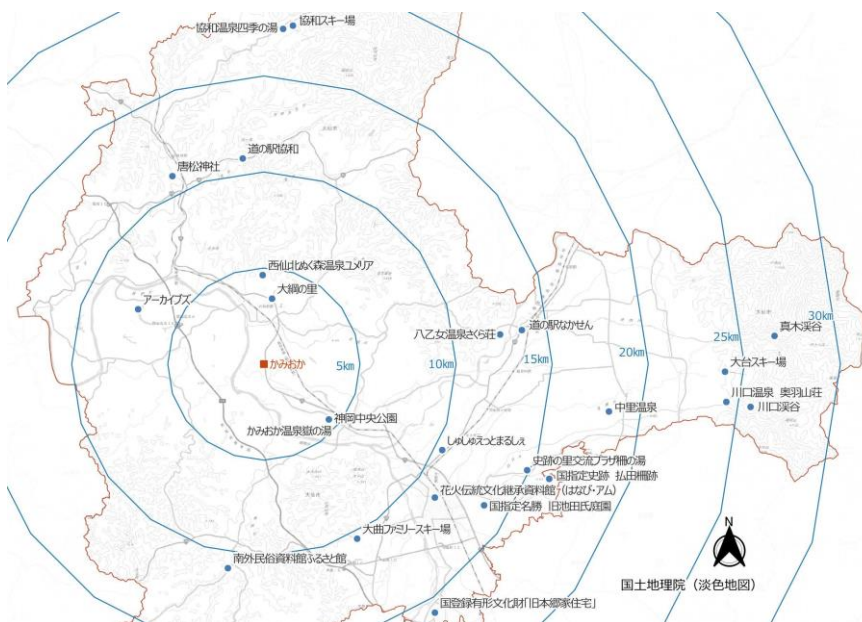


図 周辺の観光地や施設等の分布

(8) 持続可能な開発目標(SDGs)と脱炭素化の対応

大仙市は、2022（令和4）年度に内閣府より「SDGs 未来都市」に選定されており、同年に「大仙市 SDGs 未来都市計画」を策定しています。「SDGs 未来都市」とは SDGs の理念に沿った基本的・総合的取組を推進しようとする都市・地域の中から、特に「経済」、「社会」、「環境」の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域のことです。

「大仙市 SDGs 未来都市計画」にて、2030（令和12）年のあるべき姿として「Well-being にあふれ 未来に向けて持続発展する 田園交流都市だいせん」を掲げ、大仙市の将来都市像である「人が生き 人が集う 夢のある田園交流都市」の実現を見据え、SDGs を原動力とした多様な主体との協働の取組を進めることにより、自然環境の保全・継承と地域の強みを活かした経済・産業の振興を実現するとともに、市民がいきいきと輝き、健康で幸せに暮らせる地域社会を構築し、Well-being にあふれた未来に向けて持続的に発展する都市を目指しています。

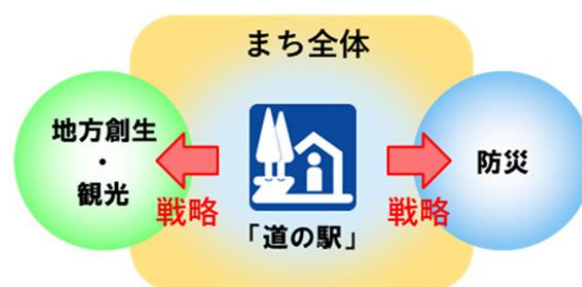
また、大仙市は、国際社会の一員として脱炭素化に向けた責任と役割を果たしつつ、豊かな自然があふれるふるさとを子どもたちに引継ぎ、持続可能で希望に満ちた未来を創造していくため、2022（令和4）年4月に、大仙市議会と共同で「2050年ゼロカーボンシティ宣言」を行っています。2050（令和32）年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「カーボンニュートラル」を目指し、これまで実施してきた公共施設の二酸化炭素排出量の削減や廃棄物の減量化、再生可能エネルギーの導入、森林の保全などについて取組を強化していきます。

1-3 道の駅の動向

(1) 第3ステージ

はじめは通過する道路利用者へのサービス提供が主たる機能でしたが、道の駅の持つ地域との連携機能は次第に役割を増し、道の駅自体が目的地となるような箇所も増えています。このような変遷を「第1ステージ」、「第2ステージ」と呼称し、2020（令和2）年からは「地方創生・観光を加速する拠点」を目指す「第3ステージ」が進行中の段階にあります。これらのステージは切り替わるものではなく、道の駅の機能が拡張され、かつ高度化してきた変遷を表すものとなっています。

第3ステージに該当する道の駅とは、地域が主体となり「まち」と「道の駅」が一体で目指すものを共有し、意志を持って、戦略的にコンセプトの実現を成し遂げている道の駅のことを指します。



（概念図の意味）
住民や多様な関係者を含む「まち全体」の視点をもとに、「まち」と「道の駅」が互いに影響しあい、双方が共通の意志を持って戦略的に取組を実施

図 第3ステージ

出典）国土交通省（「道の駅」第3ステージ推進委員会 配布資料、道の駅案内）

(2) 近隣の道の駅

道の駅かみおかを中心に同心円距離を描くと、15 km圏内に道の駅協和と道の駅なかせん、25 km圏内に道の駅美郷（美郷町）、30 km圏内に道の駅東由利（由利本荘市）と道の駅おおうち（由利本荘市）と道の駅岩城（由利本荘市）があります。

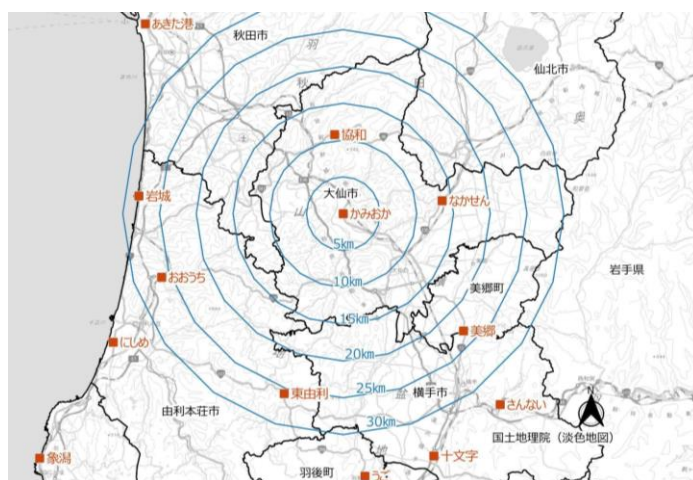


図 近隣の道の駅

表 近隣の道の駅

名称	市町村	前面道路	主な機能	駐車場
道の駅かみおか	大仙市	国道13号	レストラン、軽食・喫茶、ショップ、公園	大型：14台、普通車：37台
道の駅協和	大仙市	国道46号	レストラン、軽食・喫茶、ショップ、観光案内、公園	大型：12台、普通車：121台
道の駅なかせん	大仙市	国道105号	レストラン、軽食・喫茶、ショップ	大型：12台、普通車：71台
道の駅美郷	美郷町	国道13号	レストラン、軽食・喫茶、ショップ、観光案内、公園	大型：21台、普通車：75台
道の駅東由利	由利本荘市	国道107号	ショップ、温泉施設、公園	大型：18台、普通車：99台
道の駅おおうち	由利本荘市	国道105号	レストラン、軽食・喫茶、ショップ、体験施設、温泉施設、宿泊施設、公園	大型：8台、普通車：246台
道の駅岩城	由利本荘市	国道7号	レストラン、軽食・喫茶、ショップ、観光案内、温泉施設、公園、キャンプ場等、展望台	大型：20台、普通車：120台

出典）道の駅 HP

1) 市内の道の駅

ア 道の駅なかせん「ドンパン節の里」		
路線	一般国道 105 号	 
駐車場	小型車：70 台、大型車：12 台、身障者用 1 台（計 83 台）	
主な施設	こめこめプラザ売店・直売所、ラーメン屋、食堂、パン屋、情報センター、加工所、トイレ・休憩施設	
特徴	国道 105 号沿いに立地しており、建物は米蔵を思わせる外観となっています。売店では地域の新鮮な野菜やフルーツのほか、農産加工品などを販売し人気となっています。また、地域の特産である杜仲葉を活用した杜仲茶や杜仲麺、杜仲入りの飼料で育てた杜仲豚、その加工品であるソーセージやトンカツなどの商品も販売しています。 また、2025(令和 7)年にオープンしたラーメン店が人気を博しているほか、食堂、パン屋も好評で、利用者数は増加傾向となっています。	
出典) 道の駅なかせん HP		
イ 「四季の森」道の駅協和【防災道の駅】		
路線	一般国道 46 号	 
駐車場	小型車：117 台、大型：12 台、身障者用 4 台（合計 133 台）	
主な施設	農林水産物直売所、売店、レストラン、軽食、トイレ・休憩施設	
特徴	県内を走る国道 46 号沿いにある道の駅はここ 1 カ所のみとなっていることもあり、人気の休憩スポットとなっています。はちみつプリンや熊カレーなどの特産品をはじめ、農産物、山菜、いぶり漬けなどの地場産品や加工品などを販売しており、大仙市内で最多の利用者数を誇る観光拠点施設となっています。 また、道の駅協和は 2021（令和 3）年に県内で初めて「防災道の駅」に選定され、災害発生時には地域住民や道路利用者の一時的避難場所並びに災害情報の発信等の防災拠点として位置づけられています。	
出典) 道の駅協和 HP		

出典）道の駅なかせん HP

出典）道の駅協和 HP

2) 市外の道の駅（近隣3駅抜粋）

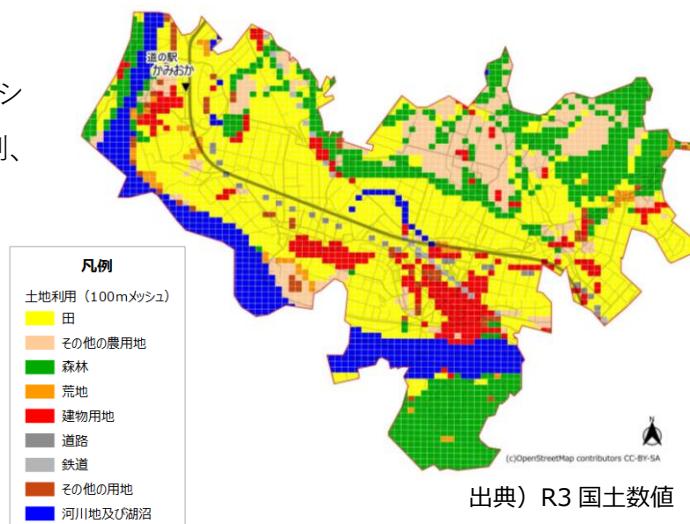
ア 道の駅十文字（秋田県横手市）【防災道の駅】		
路線	一般国道 13 号（十文字 IC から車で約 3 分）	 出典）道の駅十文字 HP
駐車場	小型車 100 台、身障者用 5 台、大型車 23 台	
主な施設	売店、農産物直売所、食事処、カフェ、コンビニ、交流・休憩ホール、トイレ、授乳室等	
特徴	平成 31 年度にリニューアルしています。ふれあい直売十文字では、新鮮野菜や果物、地元のお母さん達の手造り惣菜やスイーツを取り揃えており、品揃えが充実しています。 トイレが建物の中央に位置しており、トイレに寄るついでに、建物内の散策がしやすい環境にあります。	
イ 道の駅うご（秋田県羽後町）		
路線	秋田県道 57 号（湯沢 IC から車で約 15 分）	 出典）道の駅うご HP
駐車場	小型車 86 台、身障者用 5 台、大型車 6 台	
主な施設	売店、農産物直売所、食事処、カフェ、トイレ、授乳室、コイン式シャワー室、ATM、イベントスペース等	
特徴	平成 28 年度にオープンしています。農産物直売所では、羽後町と周辺地域の約 170 戸の生産者が参加する産直会による新鮮な野菜、果物、手作り惣菜等が出品されています。 冷やがけそばや地元産の搾りたて生乳と新鮮な野菜や果物を使った、手作りのジェラートを提供しています。毎月「イベントカレンダー」で情報発信を行っています。	
ウ 道の駅美郷（秋田県美郷町）		
路線	一般国道 13 号（横手 IC から車で約 15 分）	 出典）道の駅美郷 HP
駐車場	小型車 72 台、身障者用 3 台、大型車 21 台	
主な施設	売店、農産物直売、食事処、フリースペースカフェ、高速バス待合所等	
特徴	令和 3 年度にリニューアルしています。木材を基調としたコンパクトな建物で、国道側にはガラスを積極的に活用し、外からの視認性を高めています。休憩スペースには、田園風景を楽しめる大開口を設けています。 アウトドアショップ「モンベル」が併設しています。食事処では、釜炊きで米どころならではの美味しいごはんを提供しています。	

2章 敷地条件

2-1 敷地の関係法令

(1) 土地利用図

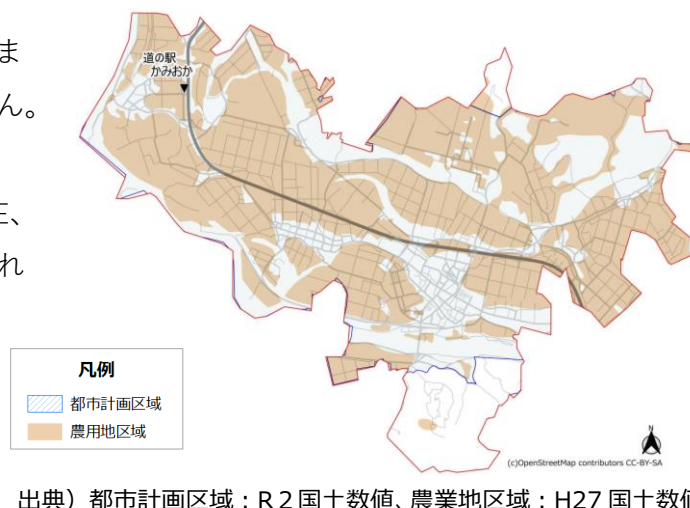
神岡地域の土地利用の分布状況を 100mメッシュで見ると、「田」が約4割、「森林」が約2割、「河川及び湖沼」が約1割となっています。



(2) 都市計画区域・農業振興地域図

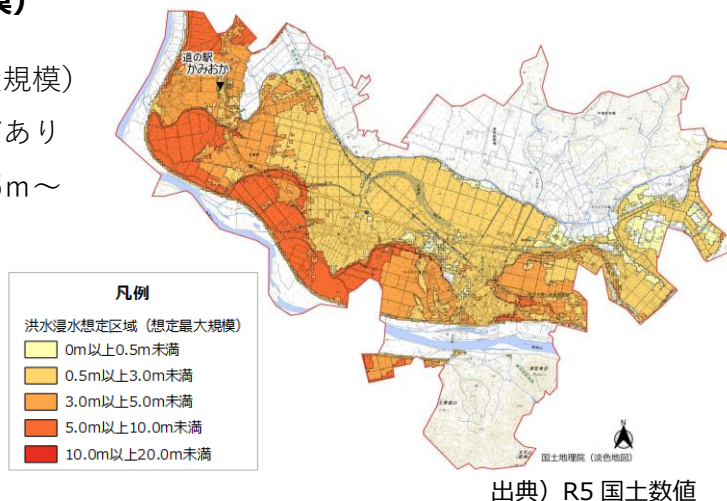
神岡地域のほぼ全域が都市計画区域に含まれているものの、用途地域の指定はありません。

地域計画によると 2025(令和7)年3月現在、神岡地域の農用地区域は 1,518.6ha が指定されています。



(3) 洪水浸水想定区域図 (想定最大規模)

神岡地域の洪水浸水想定区域 (想定最大規模) をみると、最大で 5.0m~10.0m の区域があります。現在の道の駅かみおかの位置は、0.5m~3.0m の区域にあります。



2-2 整備候補地の比較

現位置とはほかに、移転する場合の候補地を1地点選定します。候補地は、神岡地域内かつ国道13号沿いで、アクセス性を考慮して交差点付近とします。現位置と次の3地点を比較検討しました。

評価にあたっては、集客性・安全性・施工性などの視点から比較検討を行います。評価尺度は、1点（低い）～4点（高い）の4段階で比較を行います。

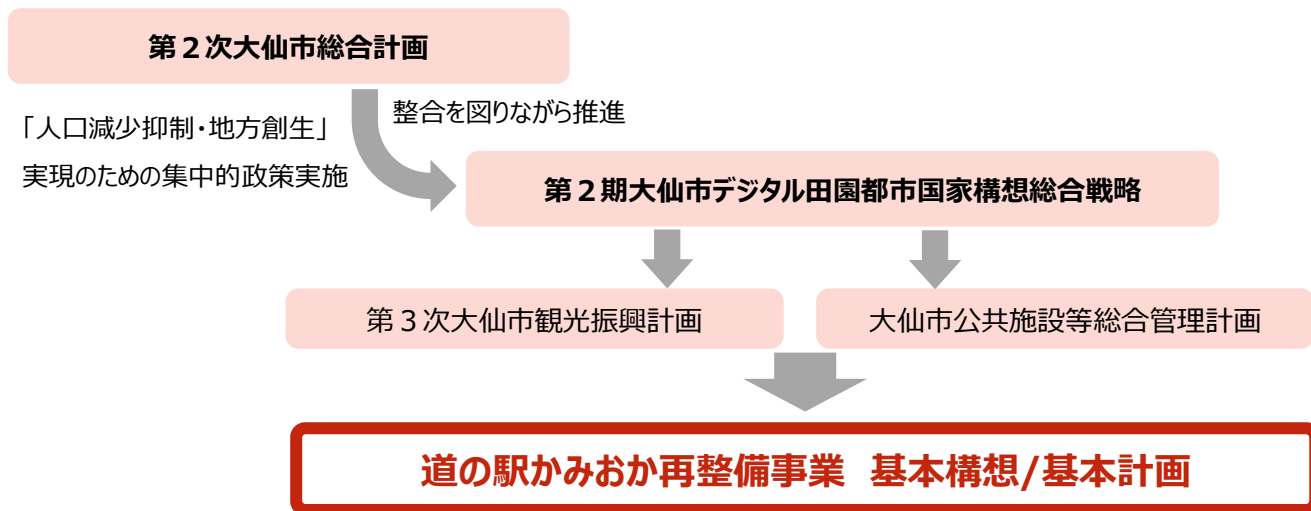
表 整備候補地の比較表

評価項目		現位置		A		B		C	
		大仙市北橋岡字船戸187番地		大仙市北橋岡嶋の周辺		大仙市神宮寺大坪の周辺		大仙市神宮寺薬師、館越中嶋の周辺	
集客性	前面道路 交通量	13,037台/日	4	13,037台/日	4	11,238台/日	2	11,238台/日	2
	交差点 状況	交差点なし	1	コンビニエンスストアあり	2	企業の工場あり	1	コンビニエンスストアあり ガソリンスタンドあり	3
	商圏人口	1 km圏内： 約300人 3 km圏内：約3,500人	2	1 km圏内： 約190人 3 km圏内：約2,100人	1	1 km圏内： 約800人 3 km圏内：約4,500人	4	1 km圏内： 約1,600人 3 km圏内： 約4,400人	3
	公共交通	コミュニティバス杉山田線 往復5便/日 船戸 直線距離約500m	1	コミュニティバス杉山田線 往復5便/日 嶋 直線距離約200m	3	コミュニティバス杉山田線 往復5便/日 内大坪 直線距離約300 m	2	JR東日本 神宮寺駅 下り19便/日 直線距離約600m	4
	周辺施設 (連携)	大綱の里	3	音楽交流館	1	かみおか温泉嶽の湯 神岡中央公園	3	神宮寺駅 神岡地域の中心部 神岡支所	2
安全性	災害	洪水浸水想定区域 0.5～3m未満	4	洪水浸水想定区域 3～5m未満	1	洪水浸水想定区域 0.5～3m未満	4	洪水浸水想定区域 0.5～5m未満	2
施工性	面積 形状	拡幅する場合、 17,000㎡	2	17,000㎡～、 整形地を確保可能	3	17,000㎡～、 整形地を確保可能	3	17,000㎡～、 整形地を確保可能	3
	法規制	非線引き区域 農用地区域 埋蔵文化財の確認要	1	非線引き区域 農用地区域 埋蔵文化財の確認要	1	非線引き区域 農用地区域 埋蔵文化財の確認要	1	非線引き区域 農用地区域 埋蔵文化財の確認要	1
	土地の 改変	拡幅する場合、 1,800㎡の造成が必要	3	前面道路との高低差あり 17,000㎡の造成が必要	1	前面道路との高低差あり 17,000㎡の造成が必要	1	前面道路との高低差あり 17,000㎡の造成が必要	1
	周辺環境 への影響	周辺に住宅は少なく、騒音 等による影響は最も小さい	3	周辺に住宅は少なく、騒音 等による影響は小さい	2	周辺に住宅があるため、騒音 等による影響は大きい	2	周辺に住宅があるため、騒音 等による影響が最も大きい	1
合計		24		19		23		22	

比較検討の結果、「現位置」が最も評価が高く、次いで「候補地 B 地点」となりました。移転する場合の候補地は B 地点とします。

3章 本計画の位置づけ

3-1 本計画の位置づけ



3-2 上位関連計画

(1) 第2次大仙市総合計画

第2次大仙市総合計画では、「人が生き 人が集う 夢のある田園交流都市」～ところをつなぎ 希望に満ちた未来の創造へ～を将来都市像と掲げ、各分野の方向性を記載しています。

道の駅かみおかに関連する内容として、「第1節の4 観光の振興」の中の「1 魅力ある観光地づくり」が該当し、主な取組みとして①魅力的な観光地づくりの推進、②関係団体等との協働による取組みの推進、③外国人観光客のための基盤整備を行うことが示されています。

計画期間	2016（平成28）年度～2025（令和7）年度	
計画の体系	将来都市像	「人が生き 人が集う 夢のある田園交流都市」 ～ところをつなぎ 希望に満ちた未来の創造へ～
	基本理念	○生き生きと生活し働くことのできる活力と創造にみちたまち ○ともに助け合い支え合う安全・安心のまち ○豊かな人材と生活環境が整った魅力あるまち
関連施策	第1節 魅力ある産業のまちを創ります！～産業振興・雇用など～ 1-4 観光の振興 1-4-1 魅力ある観光地づくり ■主な取組み ①魅力的な観光地づくりの推進 ②関係団体等との協働による取組みの推進 ③外国人観光客のための基盤整備	

（２）大仙市デジタル田園都市国家構想総合戦略

計画期間	2020（令和２）年度～2025（令和７）年度	
計画の体系	人口の 将来展望と 目標人口	令和 47 年（2065 年）に 4 万 2 千人の人口を確保します
	地域 ビジョン	Well-being にあふれ 未来に向けて持続発展する 田園交流都市だいせん
	基本目標	1 だいせんの未来を拓く地域産業の振興と新産業を育むまちづくり 2 魅力にあふれ愛着と誇りが持てる新たな人の流れを生むまちづくり 3 結婚・出産の希望をかなえ子育てに喜びと安心を感じられるまちづくり 4 地域の生活を守り未来につなぐ元気あふれる地域づくり
関連施策	基本目標 2 魅力にあふれ愛着と誇りが持てる新たな人の流れを生むまちづくり 戦略パッケージ（３）観光振興と交流人口の拡大 【具体的施策①】 花火をはじめとする地域資源を活かした観光振興 ■主な事業 ○観光拠点施設整備事業 ○観光推進事業 ○観光 P R イベント事業 ○観光ガイドボード事業 ○道の駅のリニューアル ○大仙市東部エリア観光ビジョンに基づく取組 ○観光 D X の推進	

（３）第 3 次大仙市観光振興計画

計画期間	2021（令和３）年度から 2025（令和７）年度	
計画の体系	基本理念	「大曲の花火」を本市の観光 P R に最大限活用し、「花火振興」と「観光コンテンツ」の共創として「観光誘客から観光消費へ」
	基本方針	基本方針 1 知ってもらおう！（プロモーションの強化） 基本方針 2 来てもらおう！（受入れ体制の整備） 基本方針 3 満足してもらおう♪（観光コンテンツの開発）
	関連施策	基本方針 2 重点施策 5.観光拠点の魅力向上 アクションプラン 11.「道の駅」の機能強化 ■主な内容 ①人気道の駅の先行事例調査と情報共有を行う ②アンケートや需要調査に基づき、魅力的な売り場づくりを行う ③道の駅パンフレットの作成を支援する ④道の駅内の観光案内機能の強化を図る

(4) 大仙市公共施設等総合管理計画

計画期間	2017（平成 29）年度～2046（令和 28）年度	
計画の体系	目的	効率的で効果的なマネジメントの実施により質と量の適正化を図り、安心・安全で持続可能な公共施設等の維持を実現すること
	公共施設の 適正管理の 基本方針	①計画的な長寿命化対策 ②施設の総量縮減の推進 ③財産の有効活用 ④維持管理コストの低減
関連施策 (個別計画)	施設類型 5 観光施設 5 - 3 - 1 道の駅かみおか「茶屋っこ一里塚」 道の駅は休憩施設として存続すべき施設であり、継続的に運営する必要があることから、耐用年数までは長寿命化対策を講じ、施設の充実に努めていきます。また、地域の観光拠点としての役割や、災害時の拠点となる役割を担うよう検討を進めます。	

（５）道の駅かみおか再整備基本構想

本計画は基本構想で設定した、基本コンセプトおよび基本方針に即します。

道の駅かみおかの再整備にあたっては「地方創生・観光を加速する拠点」（第３ステージ）づくりを念頭に「Experience 大仙！～大仙を体験！～」を基本コンセプトに掲げ、道の駅かみおかが立地する神岡地域のみならず、大仙市全体の様々な魅力を発信し、訪れる方からその魅力を体験していただける、多くの方々が訪れたい施設を目指すとともに、地元市民や地域と連携・交流できる場所、まちづくりとも連携した地域振興のための拠点となる施設を目指すこととします。

基本コンセプト：

「Experience 大仙！～大仙を体験！～」

基本方針：

①本市の産品の魅力を広く発信し、その魅力を「体験（味わう）」できる場とします

大仙市の魅力的な地場産品を広く発信する施設として、また、その産品を実際に味わい良さを知っていただける大仙市を体験できる施設を目指して、ハード・ソフトの両面から再整備を図ります。

②本市の観光・歴史・文化を「体験（観る）」していただく機会を創出する場とします

大仙市が誇る文化財や行催事をはじめとした魅力ある観光資源等を広く発信し、内外から訪れる方々がその資源を観て、触れて、参加できる機会を創出する観光情報発信施設を目指して、ハード・ソフトの両面から再整備を図ります。

③市民が集まり、地域の交流が生まれる「体験（ふれあう）」の場とします

市民のコミュニティ活動や地域交流ができる施設として、また、観光客との滞在交流ができる交流促進・地域連携施設を目指して、ハード・ソフトの両面から再整備を図ります。

④誰もが安全・安心して訪れ、快適に「体験（過ごす）」できる場とします

季節や時間帯にかかわらず、こどもや高齢者、障がいをお持ちの方など誰もが安全に安心して来訪でき、快適に過ごすことができるインクルーシブな施設を目指して、ハード・ソフトの両面から再整備を図ります。

4章 意向調査

4-1 調査概要

(1) 既存調査

調査名	実施期間	主な目的・内容
1) 利用者アンケート調査	令和4年9月1日 ～30日	・利用目的、現状の施設の満足度、満車時について、整備の要望等
2) 従業員意見調査	令和3年6月8日 ～30日	・現状の施設や改善点について、集客アップのアイデア等
3) 神岡地域協議会ワークショップ	令和4年9月22日 他2回開催	・協議会委員と平和中学校生徒による「道の駅かみおかを拠点としたまちづくりを考える」ワークショップの開催
4) 市民による市政評価	令和6年5月10日 ～6月7日	・利用の有無とその目的、サービス機能の要望、利用する道の駅等

(2) 本計画で実施した調査

調査名	実施期間	主な目的・内容
1) 利用者アンケート調査	令和7年4月25日 ～5月16日	・現状の施設の満足度、整備の要望、利用目的等
2) 庁内関係部署ヒアリング調査	令和7年5月20日 ～6月12日	・活用できる事業やタイアップできる事業、参画意向等
3) 道の駅かみおか駅長ヒアリング調査	令和7年5月28日	・利用状況、不安や課題、要望等
4) 市内公共施設ヒアリング調査	令和7年6月27日 ～7月11日	・利用者数や利用状況、連携・協働の可能性、管理者の立場からの要望、参画意向等
5) 地元企業団体ヒアリング調査	令和7年6月13日 ～27日	・連携・協働の可能性、企業や団体の立場からの要望、参画意向等
6) 神岡地域協議会ヒアリング調査	令和7年5月28日	・地域活動で利用するための要望、参画意向等
7) 庁内職員アンケート調査	令和7年5月20日 ～6月2日	・やってみたい事業等のアイデア、市内の魅力、よく行く道の駅とその理由等

4-2 調査結果

(1) 既存調査

利用者や住民等からの現施設に対する意見や再整備にあたっての提案等について整理します。

利：利用者、地：地元住民（地域協議会と中学生）、市：市民、従：従業員を示します。

レストラン	利：全体的に利用者の満足度は比較的高い一方で、他導入施設との比較では不満の声がある。ほぼ毎日利用する層は、広さと値段について一定の満足感を得ているものの、改善を求める声もある。 地：地元の産品を使った食品メニューの開発や、いものこなど地元生産物を使った目玉商品がほしいなどの意見がある。 従：施設の再整備にあたり、外で飲食ができるテラス席や一人向けのカウンター席の設置、メニューの増加、物産の食品をレストランで食べられるようにする仕組みづくりなどができればとの意見がある。
物産	利：全体的に利用者の満足度は比較的高い。品揃えについては利用頻度によって満足度が異なる。 地：売店の通路が狭い、店内が閑散とした雰囲気、売店が暗いなどの意見がある。 従：利用者に足を止めていただけるような陳列にすることや、地元の野菜、果物、手作り総菜やお菓子、檜岡焼、一里塚の商品を販売するなどの意見がある。また、業者が自ら陳列し、作業の効率化を図る仕組みづくりが必要との意見もある。
農産物直売所	利：全体的に利用者の満足度は比較的高い一方で、他導入施設と比較すると特に広さについては不満の声がある。ほぼ毎日利用する層は、品揃えについて一定の満足感を得ているものの、改善を求める声がある。 地：直売所について誰でも気軽に野菜を持ち寄れるようにしてほしいなどの意見も寄せられている。 従：他の道の駅と比べ種類・品数が少なく改善が必要との意見がある。また、従業員の負担軽減のため、直売所と物産館を連携・一体化する仕組みづくりが必要との意見もある。
屋台市場	利：全体的に利用者の満足度は比較的高い一方で、広さについては不満の声がある。ほぼ毎日利用する層の満足度については比較的高くなっている。 地：味どうらくソフトが美味しいとの意見がある。 従：席数が少なく、屋外に臨時席を設けている現状であり、席数の増加が必要との意見がある。また、車内や外で食べられる軽食の販売やまかないメニューを追加するなどのアイデアもある。
情報発信休憩所 トイレ	地：トイレが新しく綺麗との意見がある。 従：施設の再整備にあたっては、外から室内がよく見えて、死角がない安全・安心な場所にする必要があるとの意見がある。また、保育園児の絵やこどもの作品を飾るスペースや、使いやすい電源を備えた設備が必要との意見もある。

駐 車 場	利：全体的に利用者の満足度は比較的高い。ほぼ毎日利用する層に不満の声が一定数あり、利用頻度によって満足度が異なる。 地：駐車場が狭く改善を求める声がある。また、前面道路と出入りしやすくしてほしいとの声がある。 従：繁忙期あるいは時間帯によって駐車場不足が発生しており、駐車台数の増加が必要との意見がある。また、前面道路と出入りがしにくいいため、出入口について秋田方面は左側、大曲方面は右側のように分けるか、信号機の設置が必要であるとの意見がある。
整備・充実してほしいサービスや機能等	利：「ATM」の設置が求められている。利用頻度別にみて割合が最も高く、利用頻度が高い層では約5割以上が設置を望んでいる。また、利用頻度が低い層で「ペット関連施設」や「キャンプ施設」の割合が高い。20代と40代は「キャンプ施設」の割合が高く、趣味や小中学生のこどもがいる家族が楽しめる施設を求めている。30代と60代は「こどもが遊べる場所」の割合が高く、若いこどもや孫がいる家族が楽しめる施設を求めている。 地：地域住民の交流の場づくり、誰でも出品できる野菜の直売所、こども関連施設の併設等があればとの意見がある。また、一里塚や秋田県の少年野球発祥の地をアピールしてはどうかとの意見もある。立地については、神岡地域の端にあるがほか地域からはアクセスしやすいとの意見がある。現施設については2階がうまく使われていないとの意見がある。 市：「野菜などの直売エリア」が最も割合が高い。次いで「お土産などの売店エリア」、「レストランやフードコート」の順で割合が高い。年齢別にみると、10代は「キッチンカー」、20代は「お土産などの売店エリア」と「レストランやフードコート」、30～40代は「お土産などの売店エリア」、50代以上は「野菜などの直売エリア」がそれぞれ最も割合が高い。魅力がある県内の道の駅については「十文字（横手市）」、「うご（羽後町）」、県外では「雫石あねっこ（岩手県雫石町）」、「あ・ら・伊達な道の駅（宮城県大崎市）」が挙げられている。 従：親子連れやペット連れが多いことを踏まえ、遊び場や公園、ペットと一緒に過ごせるスペースの設置が望まれるとの意見がある。また、バス停留所の設置や道の駅と一里塚をアピールした看板・のぼりなどの設置も集客上効果があるのではとの意見がある。

(2) 本計画で実施した調査

利用者や住民等からの現施設に対する意見や再整備にあたっての提案等について整理します。

利：利用者、地：地元住民（地域協議会）、職：庁内職員、庁：庁内関連部署、

公：公共施設管理者、企：地元企業団体を示します。

既存施設について	利：全体的に利用者の満足度は約6割以上と比較的高くなっており、特にリニューアルしたトイレや休憩施設の満足度は高くなっている。不満度が最も高いのは農産物直売所で約2割となっている。物産館や夜の駐車場が暗い、売店や農産物直売所が狭い、レストランのメニューが美味しいなどの意見があった。 地：屋台市場が狭い、出品手数料が値上がりしたなどの意見があった。また、レイアウトの変更が必要との声もある。 職：秋田市方面に行くときに駐車場が広くて立寄りやすい、東北醤油とコラボしているソフトクリームが美味しい、ご飯が美味しい、メニューが多いなどの意見があった。
整備してほしい施設・アイデア・その他要望	利：「車中泊やキャンプができる場所」が47.1%と最も高く、次いで「仮眠や休憩がきる場所」、「パン屋やスイーツ、ケーキ屋等の売店」（38.8%）、「こどもが遊べる場所」（31.8%）となっている。そのほか、イベントの開催、メニューや商品開発、限定商品や地元特産品の販売などが望まれている。 地：広い集会所があれば、普段は習い事などの教室にも使え、災害時には救援活動の拠点や一時避難所となる「防災道の駅」として利用できるのではとの意見がある。また、神岡地域の中央部への移設が望ましく、スポーツ施設、神岡中央公園、かみおか温泉嶽の湯、道の駅と一つに集めたらもっと集客力が上がるのではないかととの意見があった。神岡地域、西仙北地域、他の道の駅の協力してもらい特産品を一つに集約するなどの工夫も必要ではないかととの意見もある。 職：スタンプラリー、キッチンカー、マルシェ、軽トラ市、蚤の市、食べ物フェス、味どうらく祭り、東北醤油とコラボした流しそうめん、お料理教室、子育て世帯に特化、キッズダンスバトル、屋外写真会、動物ふれあいイベント、こどもが遊べる公園、特産品のテスト販売、ウォーキングスポット、田んぼ散歩、国交省と協力して除雪車など建設車両の展示、野球資料館的な展示、地域のこども達の絵等作品の展示、展示ケースを設置、茶屋っこ一里塚という愛称からお茶が飲める場、屋外の屋根付き休憩スペースの設置など様々な提案があった。
大仙市の魅力	利：大仙市の食の魅力としては、東北醤油の味どうらくの里、強首白菜などが挙げられた。 職：東北醤油の味どうらくの里、かくし味が有名。しゅしゅえっとまるしえのぼだっこ弁当や、道の駅なかせんの鬼そば藤谷等、話題になるような大仙市独自のグルメが魅力であるとの意見があった。また、のどかな田園風景と蛙の鳴き声、自然の風景、太田の星空、黒森山山頂から見える風景、太田の黄桜や菜の花、綺麗な中仙地域の桜、かみおか温泉嶽の湯、リニューアルした中里温泉（サウナ）、かみおか温泉嶽の湯と周辺公園、文化施設、ドンパン祭り、誰でも参加できる刈和野の大綱引き、500歳野球、神岡中央公園や中仙のさくら祭り、すくすくキッズフェスなど様々な大仙市の魅力が挙げられている。

庁：	(移住定住促進課) ふるさと納税を活用した商品の魅力発信や体験型返礼品等の連携。 (神岡支所市民サービス課) 防災道の駅に指定された場合、宇留井谷地・船戸地域の避難所指定。 (神岡中央公民館) 小中学生、老人大学受講生、各種サークル参加者の作品展示、小中学生のステージ発表や地域文化祭等のステージ発表の場として活用。 (神岡支所地域活性化推進室) 彩色千輪プロジェクト事業として行っている「長沼自然観察会、すくすくだけっこ園児童絵画作品展、写友嶽会員写真展」との連携。季節イベントの開催や地域団体の活動の場、神岡中央公園で開催するイベントとのタイアップ企画等。 (観光交流課) JNTO 認定外国人観光案内所として多言語観光案内機能を持ったインバウンド受入の拠点化。 (健康増進センター) 施設内に健康づくりや栄養に関する正しい知識の普及を目的として、既存のパンフレットやチラシ等を設置、6月の食育月間と連携、野菜レシピを展示。出張健康相談会などのニーズがあればタイアップ、イベント時に展示等で健康づくり・自殺予防の普及啓発、大仙市食生活改善協議会神岡支部との食育活動事業、調理実習や試食を伴った生活習慣病予防等について伝達講習会。 (健幸まちづくり推進室) 敷地内1周約200mのコースを活用した歩くことをメインにした健康意識が高まる内容のイベントの開催(冬期間も含む)、参加特典として健幸ポイントの付与。 (スポーツ振興課) 500歳野球大会を中心としたスポーツ関連事業の期間限定展示、ミズノ協定事業製品の販売。 (総合防災課) 市民の防災意識を啓発する防災展・防災コーナーの開催。 (地域活動応援課) 要望があれば公共交通の停留所の設置、地域住民が主体となって地域の課題解決や活性化につながる事業を実施する場合は地域枠予算の活用可能。 (文化財課) 文化財を活用した展示や研修会などの事業連携。
公：	(かみおか温泉嶽の湯) 当施設の団体利用のバス送迎で立ち寄り、双方使える割引券の配布。 (道の駅協和) 周遊キャンペーン、スタンプラリーによる連携。 (道の駅なかせん) 県南部の道の駅で連携開催している「じまんこ市場」の継続実施。(イベント開催時にそれぞれの道の駅が地元の野菜や加工品等を持ち寄り販売する取り組み)
企：	季節感のある商品の供給、一定金額以上の商品買上げで蔵見学を無料で案内するサービス。 災害等発生時の地元建設業者との応急対策、復旧作業の連携協力。 ローカルマルシェの開催、新開発商品のテストマーケティングの場、地域おこし協力隊や学生などと連携した地域情報の発信。 コラボ商品や道の駅かみおかの独自商品を強調した売り場づくりなど。

再整備に向けた要望	庁：（観光交流課）道の駅は大曲駅と並び市の重要な観光拠点であるため、市全体を PR できる施設への再整備が望ましい。特に食と文化について情報発信できる仕組みが必要である。 公：温泉施設と同敷地が理想だが、少しでも近くにすることで、イベント等による集客の相乗効果はある。トイレだけで帰さないレイアウトが必須。雇用も見据えたスタッフ満足度の高い整備内容で「行く目的」がある道の駅となるよう、魅力ある施設・コンテンツづくりが必要。 企：例えばゴーカート広場を作るなどこどもも楽しめる空間づくりが望ましい。また、地場産品に特化した品揃えを行い、神岡地域の特徴を引き出すことも重要。道の駅のみならず、市や観光物産協会、JA、かみおか温泉嶽の湯、商工団体等、地域内の関係機関・団体の連携による面的な地域活性化を目指す推進体制の構築が必要。SNS での情報発信、口コミが広がれば、より広域な集客も可能と考える。昼食時には大型ダンプやトラックの駐車が多く、通路側に駐車する方もいることから、安全対策を万全にしていきたい。
-----------	---

5章 道の駅かみおか再整備方針

5-1 導入機能

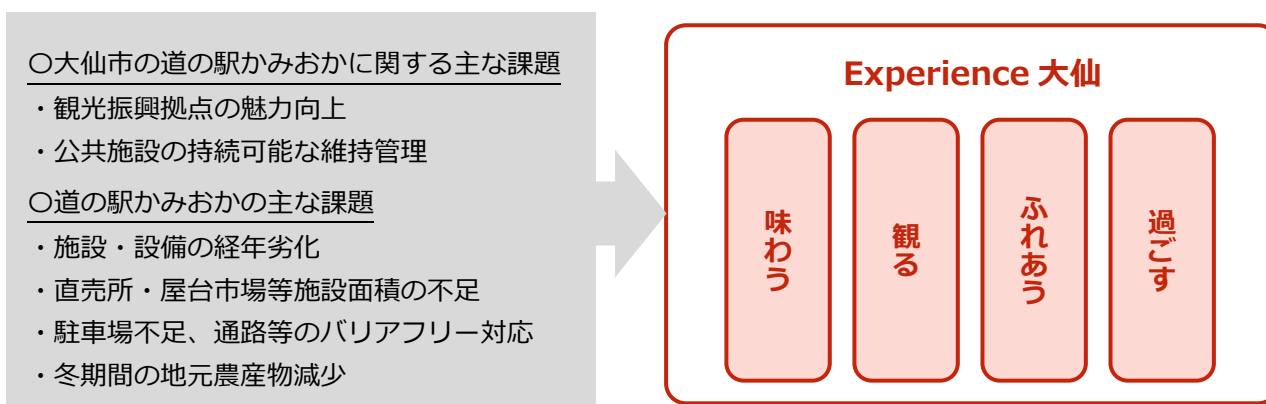
(1) 現状や課題の整理 (SWOT)

強み (Strength)	・国道13号沿いに立地し、ドライバーの休憩空間として利便性が高い施設となっている。 ・旧羽州街道の「一里塚」(日本橋から数えて133番目)が道路の両側に現存し、県の指定文化財として歴史的な魅力を有している。 ・「万能つゆ 味どうらくの里」とコラボしたソフトクリーム、酒まんじゅう、俵あげまんじゅうなどが人気となっているほか、土日限定で「大仙バーガー」を提供するなど話題性を有している。 ・地元の新鮮な野菜やお米、特色ある特産品の直売コーナー、地元食材を活かしたメニューを提供するレストランなど、地元の「食」を楽しめる魅力を有している。 ・道の駅かみおか独自の周辺道の駅と連携したイベントを開催し集客力を高めている。 ・24時間利用可能な休憩所やトイレ、道路情報コーナーを完備している。 ・レストランはバリアフリー構造で、車いすでの利用も可能となっている。 ・無料Wi-Fiや電子マネー・クレジットカード決済に対応しており、利便性が高い。 ・地震・土砂災害時の避難場所に指定されており、小型発電機等を保有している。
弱み (Weakness)	・1996(平成8)年度に開駅、築29年が経過し、経年劣化が顕在化してきている。 ・野菜直売所や物産館(売店内通路)が手狭で、品揃え・商品の陳列に限界がある上、来客が多い時期・時間帯には混雑し、ゆっくり買い物ができないという意見がある。 ・冬期間(12～2月)は地元農産物が少なくなり、集客が課題になっている。 ・道の駅かみおかの商圈人口は5km圏内で約1万人と比較的少ない状況であり、地元神岡地域の生活拠点から離れている。また、敷地内にバス停がなく、自家用車以外のアクセス性が悪い。 ・秋田自動車道の西仙北ICから車で約15分、周辺に集客可能な観光スポットが少ない。 ・洪水浸水想定区域(想定最大規模)0.5m～3.0m区域のエリアに立地している。 ・現施設の2階部分が活用されていない。(エレベーター設置困難)
機会 (Opportunity)	・国において、道の駅の新たな役割として「地方創生・観光を加速する拠点」を目指す「第3ステージ」が進行中である。また、DXとしてあらゆる分野にデジタル技術の活用が進んでいる。 ・全国花火競技大会「大曲の花火」には数十万人の来訪者がある。また、2028(令和10)年には第100回記念大会が開催される予定であり、さらなる来訪者の増加が期待できる。さらに、「神岡南外花火大会」や「全国・全県500歳野球大会」等集客力のあるイベントが開催されている。 ・大仙市内には貴重な文化財が多く、また、伝統的な祭りやイベントの文化が根付いている。 ・訪日外国人旅行者が急増中であり、国内旅行者1人当たりの旅行支出費も増加している。 ・大仙市は広大で肥沃な田園地帯を有し、米をはじめとした農産物・地酒、食文化などがある。 ・道の駅かみおか周辺には、かみおか温泉嶽の湯、親子連れに人気の神岡中央公園、貴重な野球資料を展示する嶽雄館、嶽ドーム等のスポーツ施設があるほか、屋内遊び場施設(2027(令和9)年度供用開始予定)の整備も予定されており、集客性が高く連携が可能な施設が立地している。

脅威 (Threat)	・気候変動と自然災害が激甚化している。 ・人口減少の進行に伴い地域の消費が減少している。 ・雪による冬期間の集客が減少している。 ・地域の特色を活かした魅力的な道の駅や類似施設が増えており、差別化が必要となっている。 ・原材料費や燃料費、人件費の高騰が続いている。 ・公共施設の維持管理費が増加している。
周辺施設や競合について	・かみおか温泉嶽の湯：大人 500 円、小人 250 円、食事や宿泊も可能 ・神岡中央公園：芝生広場に複合遊具やインクルーシブ遊具、ボルダリング遊具等のある公園 ・屋内遊び場施設：2027（令和 9）年度に供用開始に向けて整備中 ・かみおか嶽雄館：神岡野球ミュージアム、嶽の球史館、多目的ホールほか ・スポーツ施設：神岡球場、神岡テニスコート、嶽ドーム、神岡体育館、中川原運動公園ほか ・道の駅なかせん：杜仲葉を活用した商品が売り、小型車 70 台 ・道の駅協和：グラウンドゴルフや遊具施設のある公園が併設、小型車 117 台 ・道の駅十文字：建物の中央にトイレを配置、野菜直売所が人気、小型車 100 台 ・道の駅うご：そばやジェラートが人気、小型車 86 台 ・しゅしゅえっとまるしえ：JA 秋田おばこが運営（直売所面積 473 ㎡）、小型車 154 台 ・大綱の里：株式会社マルシメ等が運営（直売所面積 69 ㎡）、小型車 10 台
要望やアイデアについて	・レストランへのテラス席やカウンター席の設置、地域の食材を使用したメニューの開発 ・物産販売スペースの狭く暗い雰囲気への解消に向けたレイアウト等の変更 ・農産物直売所の品揃え改善と販売スペースの拡大 ・屋台市場のスペースの拡大と座席の増加、夏場の厨房内の環境改善 ・休憩所への作品展示スペース等の設置、安全に安心して利用できる休憩所づくり ・駐車場不足の解消に向けた駐車場スペースの拡大、通路駐車防止、バス停の設置 ・ATM や車中泊・キャンプができるスペース、仮眠ができる場所の設置 ・パンやスイーツの販売 ・「一里塚」や「秋田県少年野球・500 歳野球発祥の地」をアピールする仕組みづくり ・地域で利用できる場所、地域住民の作品展示や発表の場の設置 ・市全体をアピールする観光振興拠点としての機能充実 ・健康やスポーツ、防災、文化、ふるさと納税等との連携 ・秋田自動車道大曲 IC や西仙北 IC、協和 IC との有機的な連携 ・かみおか温泉嶽の湯の団体利用者の誘因
現状データ等	・年間のレジ通過数は約 15 万人。1 日あたりの推計利用者は約 510 人 ・利用者の居住地は約 4 割が大仙市と推計（市民の利用が多い） ・来街者は年間を通して 11～15 時の利用が多いと推計 ・冬期間は他の道の駅と連携して、農産物を取り寄せて陳列 ・神岡地域の人口約 4,000 人 ・積雪日数は平均 60 日/年

（２）導入機能の検討

これまでの内容を踏まえ、基本コンセプトに沿った導入機能を整理します。



1）休憩機能

- ・お昼の時間帯等のピーク時に駐車台数が足りないことから、**小型車駐車台数の増加**が求められています。（利用者、駅長等）
- ・駐車場から建物への歩行者の安全性や段差のない**バリアフリーな歩行者通路の確保**が求められています。（駅長、従業員）
- ・**車中泊ができる環境等**が求められています。（利用者）
- ・現状の休憩施設とトイレは比較的満足度が高く、**仮眠ができるスペース**も求められていることから、引き続き同様な機能を継続します。一方で、小上がりスペースで横になって休憩している人が居て利用しづらいという声や安全面が不安という声もあることから、**明るく安全な休憩スペース**が求められています。（利用者、従業員）
- ・レストランの満足度は比較的高い一方で、**地元の食材を利用したメニューやここでしか食べられないメニュー**が求められています。フードコートのように選択できる楽しさ、広場で飲食することで賑わいが生まれている道の駅もあります。（利用者、従業員、事例）

2）情報発信機能

- ・引き続き道の駅として**道路情報の発信**、市内の道の駅や県南の道の駅の情報発信を強化し、**災害時に備えた道の駅同士の連携**が求められています。（第3ステージ）
- ・庁内各課の事業や**市内のイベント等の情報発信**、市民や大仙市に関わりある方が作成した**作品の展示ができるスペース**が求められています。（関連部署）
- ・市内の観光施設等の情報発信も行い、**観光振興拠点**として機能することが求められています。（市の概況、関連部署）

3) 地域連携機能

- ・物産販売スペースは暗い、通路が狭い、レイアウトを変更してほしい等の声が多くあることから、**明るく解放的な物産スペース**が求められています。人気商品の酒まんじゅう、味どうらくの里とのコラボ商品等をさらに強化してブランド化できるような売場も求められています。(利用者、従業員等)
- ・農産物直売所は狭いという声が多い一方で、冬期間に品揃えが少なくなることを考慮した**フレキシブルな農産物直売所のスペース**が求められています。また近隣に、大綱の里やしゅしゅえっとマルシェがあることから、幅広いエリアからの出品者の募集ができる仕組みづくりも求められています。(利用者等、競合他社)
- ・地域住民の発表の場になるステージやキッチンカー、トラック市等の**イベントができる広場**が求められています。(利用者、庁内職員)
- ・震災と土砂災害時の避難場所に指定されているため、**避難場所としての機能**を継続します。(関連部署、市の概況)
- ・地域住民のコミュニティ形成や地域活動ができる**集会室や会議ができるスペース**が求められています。(地域住民、関連部署等、第3ステージ)

4) 観光振興機能

- ・道の駅としての機能のほか、大仙市の観光振興拠点として、道の駅かみおかから**市内の観光地や施設への回遊を促す仕掛け**が求められています。(関連部署、市の概況)
- ・大仙市の**歴史や文化、食、自然を体験できるスペース**が求められています。(庁内職員等)
- ・開駅当初の経緯と愛着を尊重し、「一里塚」と「茶屋っこ(休憩)」を活用したスペースが求められています。(地域住民、庁内職員等)

5) その他

- ・神岡地域には子育て世帯向けの施設が充実していることから、**こどもや子育て世帯が利用しやすい施設**が求められています。(市の概況)
- ・限られた人員で効率的に働けるよう、**デジタル技術の活用や管理動線を考慮した施設**が求められています。(駅長、管理者、技術)
- ・積雪の期間でも利用や管理がしやすい、**除排雪を考慮した施設**が求められています。(市の概況)

5-2 導入施設の整備方針

1) 駐車場

[味わう](#)[観る](#)[ふれあう](#)[過ごす](#)

駐車場はより多くの車が駐車できる効率的なレイアウトとします。駐車スペースは、止めやすい適切なサイズや二重線の区画線とし、駐車しやすいように配慮します。駐車場から建物へ、誰もが安全に移動できるバリアフリーの歩行者通路を整備します。合わせて、道の駅との往来のしやすい場所に駐車場を整備します。

市では省エネ性能に優れるEV・PHEV車の普及促進を進めており、市内の道の駅にEV急速充電器の整備をしていることから、道の駅かみおかにもEV急速充電器を整備します。

また、電源付きの駐車場やRVパークについては、最近整備が進められ、利用者の要望も多いことから、整備の可能性について検討します。



EV 充電器（道の駅協和）



RVパーク（道の駅 越前おおの）

2) トイレ

[味わう](#)[観る](#)[ふれあう](#)[過ごす](#)

トイレは24時間、いつでも安心して快適に利用できる施設とします。十分な明るさの確保や清潔さ、冬期の寒さに配慮します。

子育て世帯の利用に配慮して、こどもトイレの整備、授乳室やベビーケアルームの整備をします。紙おむつやウェットティッシュ等が購入できる自動販売機等の設置も検討し、子育て世帯が安心して利用できる施設とします。

また、オストメイトや洗顔器のほか、女性用トイレにはパウダーコーナーを設置します。



明るく広い通路（道の駅ふくしま）



こどもトイレ（道の駅立田ふれあいの里）



自動販売機（道の駅やまがた蔵王）

3) 休憩施設

味わう

観る

ふれあう

過ごす

休憩施設もトイレと同様に 24 時間利用でき、明るく安全な施設とします。現在の休憩所の満足度は高く、仮眠できるスペースも求められていることから小上がりスペース等の整備を検討します。道路利用者だけでなく、地域住民も利用できる明るく広い休憩施設を整備します。



景色が見える休憩所（道の駅美郷）



小上がり（道の駅かみおか）



明るい休憩所（道の駅いせん桜新庄宿）

4) 情報発信施設

味わう

観る

ふれあう

過ごす

休憩施設と併用した情報発信施設を整備します。DX 推進の観点から大型のデジタルサイネージの活用などデジタル技術を積極的に用いて「道路情報」、「観光情報」、「地域イベント」等の情報を発信します。また、外国人観光客に配慮して、案内看板を含めて多言語対応とします。



道路情報発信（道の駅やまがた蔵王）



観光情報発信（道の駅いわて北三陸）



大型モニター（道の駅大谷海岸）

5) 物販施設

[味わう](#)[観る](#)[ふれあう](#)[過ごす](#)

物販施設は、大仙市だけでなく秋田県内の特産品や地元企業と連携した商品を陳列します。また、車椅子利用者に配慮した通路幅を確保した明るい空間を整備します。キャラクター等を使用した「味どうらくの里」のコーナーを設けるなどブランド力の強化を図ります。商品販売以外にもレシピの発信等を行い、また、地域住民等の手作りのお惣菜やお菓子等の販売を検討します。

農産物直売所は物販施設と同エリアに整備します。神岡地域以外の農家さんからも出品していただけるような仕組みづくりを検討します。冬期間、農産物が少なくなることを見込んで、ほかの商品の陳列や展示のスペースとして活用できる、フレキシブルな配置を検討します。



メロンパンの陳列棚（道の駅常総）



物販と農産物直売所（道の駅うご）



可動式陳列棚（道の駅上品の郷）

6) 飲食施設

[味わう](#)[観る](#)[ふれあう](#)[過ごす](#)

大仙市の食材や味どうらくの里を使用したメニュー、秋田県の食文化を体験できる飲食施設とします。レストラン、軽食、テイクアウトも可能なフードコートを整備します。特にお米や味どうらくの里を使ったメニューを検討します。子育て世帯向けの席、1人でも利用しやすいカウンター席等を整備します。フードコートに隣接して団体で利用ができる場所を整備し、地域の人の集会スペースや団体客の食事場所とします。



フードコート（道の駅常陸大宮）



小上がり・カウンター席（道の駅おおえ）



隣接した談話コーナー（道の駅なみえ）

7) 観光振興施設

味わう

観る

ふれあう

過ごす

道の駅かみおかは神岡地域だけでなく市全域の観光振興拠点とします。道の駅かみおかに大きな観光施設を整備するのではなく、市内の観光施設や観光資源と連携・協働し、回遊を促す拠点施設とします。そのため、情報発信施設に記載したように、デジタルを積極的に用いて観光地や施設、イベント等の観光情報を発信します。特に大きな集客イベントである「花火」については、市内の年間の花火スケジュールや各花火大会の特徴などを発信します。

また、神岡地域のブランド力を強化するため、「秋田県少年野球発祥の地」「500歳野球大会発祥の地」であることを前面に打ち出しながら、地域資源である一里塚、田園風景、そして地元のお祭りや企業を発信・体験できる観光施設を整備します。展示コーナーは、休憩施設等との併設する形とし、一定期間で展示内容を入替えができるスペースを整備します。



可動棚の展示コーナー（道の駅かさま）



展示通路（道の駅やまがた蔵王）



スギの埋もれ木（道の駅ふたつ）

8) 展望スペース

味わう

観る

ふれあう

過ごす

一里塚や田園風景、天気の良い日には神宮寺嶽を望むことができる展望スペースを整備します。テーブル、椅子、カウンター等を整備して景色を見ながら飲食や休憩ができるスペース、パノラマ板、写真スポットを整理して神岡地域の風景を体験できるスペースとします。

また浸水時に避難が困難なときの緊急の垂直避難場所として利用します。



展望デッキ（道の駅ふたつ）



展望ラウンジ（道の駅石狩）

9) 広場

[味わう](#)[観る](#)[ふれあう](#)[過ごす](#)

イベントが実施できる広場を整備します。マルシェ、キッチンカー、トラック市を開催できるような広場とします。市民活動の発表や催し物が開催できるミニステージの整備を検討します。



屋根付き広場（道の駅かくだ）



イベント広場（道の駅ふくしま）



ステージ（あ・ら・伊達な道の駅）

10) その他

[味わう](#)[観る](#)[ふれあう](#)[過ごす](#)

震災と土砂災害時の避難場所に指定されているため、防災倉庫を整備します。

管理・運用に必要な施設や設備を整備します。また、積雪時を考慮した施設とします。

建物の内装、家具や什器等には、神岡地域の資源を活用したデザイン等を使用します。

SDGs 未来都市であり、ゼロカーボンシティを目指す大仙市として、二酸化炭素の排出抑制につながる再生可能エネルギーの導入についても検討します。

5-3 規模算定

1) 駐車場

「設計要領第四集休憩施設（令和5年7月）東・中・西日本高速道路株式会社」に記載の算出方法を用いて、駐車ます数（サービスヤードは含まない）を試算します。なお、今回は上下両側の車線から立寄りが可能な「道の駅」のため、両側の車線分の交通量から駐車ます数を試算します。

また、身障者用小型車駐車ます数については、「設計要領第六集建築施設編「第1編休憩用建築施設」（令和5年7月）東・中・西日本高速道路株式会社」に記載の算出方法を用います。

試算の結果、SAとPAの必要駐車ます数は次のとおりです。

表 SAとPA必要駐車ます数

車種	SA	PA	差分
小型車	120台	41台	79台
小型車	117台	40台	77台
身障者用	3台	1台	2台
大型車	14台	10台	4台
大型バス	4台	1台	3台
大型貨物車	10台	9台	1台
合計	134台	51台	83台

現状の駐車可能台数は小型車37台、身障者用2台、大型車14台となっており、駐車場不足が指摘されている状況から、駐車ます数はSA基準を参考にし、小型車120台、大型車14台とします。

駐車ますの面積は、建物の配置や敷地の形状等によって配置が異なることや、ゆとりある駐車場空間を目指すことから、設計要領における1台あたりの駐車所要面積の最大値を確保することとし、小型車（身障者用を含む）33.5 m²/台、大型車118.8 m²/台の値を使用します。試算の結果、SAの駐車場面積は次のとおりです。

表 SAの駐車場面積

車種	SA
小型車(身障者用を含む)	4,020 m ²
大型車	1,676 m ²
合計	5,696 m ²

2) トイレ

次の2つの方法を基に、設定駐車ます数からトイレの規模を試算します。

ア 設計要領による試算

「設計要領第六集建築施設編「第1編休憩用建築施設」（令和5年7月）東・中・西日本高速道路株式会社」に記載の算出方法を用います。

試算の結果、SAとPAの必要便器等数は次のとおりです。

表 SAとPAの必要便器等数

項目		SA	PA	差分
男トイレ	小便器	8器	4器	4器
	大便器	6器	3器	3器
	大型ブース	1器	1器	0器
	オストメイト	1器	1器	0器
	洗面器	3器	2器	1器
女トイレ	大便器	24器	12器	12器
	大型ブース	1器	1器	0器
	オストメイト	1器	1器	0器
	洗面器	5器	3器	2器
	パウダーコーナー	8器	4器	4器
バリアフリースイレ		1器	1器	
こどもトイレ		2器	2器	

イ 設計要領における標準的な規模

「設計要領第四集休憩施設（平成17年10月）東日本高速道路株式会社」に記載のSA片側駐車ます数に対するトイレの便器数は、101～150台の場合、男小15器、男大5器、女15器、バリアフリースイレ1器となっています。

ウ 結果

現状のトイレ（国整備と市整備を合わせた数）は、男トイレの小便器が6器、大便器が4器、女トイレが7器、バリアフリースイレが2器となっており、「大曲の花火」大会時には行列になりますが、平常時は足りている状況です。

一方で、再整備では駐車台数が現状の3倍になることを考慮して、男トイレは設計要領による試算を参考に小便器を8器、大便器を6器、女トイレは設計要領における標準的な規模を参考に15器、バリアフリースイレを1器、こどもトイレを2器とします。

表 トイレの面積と便器等

項目	面積	設備等	
男トイレ	83.4 m ²	小便器 8器	オストメイト 1器
		大便器 6器	洗面器 3器
		大型ブース 1器	
女トイレ	116.8 m ²	大便器 15器	オストメイト 1器
		大型ブース 1器	洗面器 3器
			パウダーコーナー 4器
バリアフリースイレ	10.8 m ²		
こどもトイレ	12.2 m ²		
合計	230 m ²		

3) 休憩施設

「設計要領第四集休憩施設（平成 17 年 10 月）東日本高速道路株式会社」に記載の SA 片側駐車ます数に対する休憩所面積は、101～150 台の場合、170 m²、40 席となっています。

「設計要領第六集建築施設編「第 1 編休憩用建築施設」（令和元年 7 月）東・中・西日本高速道路株式会社」に記載の休憩 SA 一般部片側駐車ます数に対する休憩所面積は、150 台の場合、170 m²、40 席となっています。

現状の休憩施設の面積は、情報発信コーナー、防災倉庫、授乳室を含めて 132.49 m²となっており、利用者の満足度も高いことから同様の面積を確保します。また、引き続き情報発信施設を同エリアに一体的に整備します。休憩施設と情報発信施設（道路・観光・地域）を合わせた面積は、要領を参考に 170 m²とします。

4) 飲食施設

次の 2 つの方法を基に、設定駐車ます数から飲食施設の規模を試算します。

ア 設計要領による試算

「設計要領第六集建築施設編「第 1 編休憩用建築施設」（平成 28 年 8 月）東・中・西日本高速道路株式会社の※西日本で適用のもの」に記載の算出方法を用います。

試算の結果、SA のレストラン面積は次のとおりです。

表 SA 一般部のレストラン面積と席数

レストラン面積	185.6 m ²
レストラン総面積	556.8 m ²
席数	116 席

イ 設計要領における標準的な規模

「設計要領第四集休憩施設設計要領（平成 17 年 10 月）東日本高速道路株式会社」に記載の SA 片側駐車ます数に対するレストラン面積は、101～150 台の場合、500 m²、100 席となっています。

「設計要領第六集建築施設編「第 1 編休憩用建築施設」（令和 5 年 7 月）東・中・西日本高速道路株式会社※西日本で適用のもの」に記載の SA 片側駐車ます数に対するレストラン面積は、150 台の場合、416 m²となっています。

ウ 結果

現状のレストランの面積は、管理部分も含めて 225.94 m²、屋台市場は 45 m²、合わせて 270 m²となっています。レストランの面積は比較的満足度が高いことから、同様の面積とします。また、レストランに加えてフードコートも整備をすることから、管理部分や席数を配慮して、レストランとフードコートを合わせた面積は、要領を参考に 560 m²とします。

5) 物販施設

「設計要領第四集休憩施（平成 17 年 10 月）東日本高速道路株式会社」に記載の SA 片側駐車
ます数に対する売店面積は、101～150 台の場合、175 m²となっています。

「設計要領第六集建築施設編「第 1 編休憩用建築施設」（平成 28 年 8 月）東・中・西日本高速
道路株式会社」に記載のある SA 一般部片側駐車ます数に対する売店面積（西日本で適用）は、150
台の場合、170 m²となっています。

現状の売店の面積は 102.68 m²、農産物直売所の面積は 24 m²、合わせて 126.68 m²となってお
り、利用者から通路が狭い等の声が多くあります。物販施設と農産物直売所は、現状より広い面積
を確保するため、要領を参考に 175 m²とします。

6) 観光振興施設

展示コーナーを休憩施設等（170 m²）と一体的に整備します。休憩施設等の壁と通路を利用する
ため 30 m²追加し、展示コーナーを含めた休憩施設等は 200 m²とします。

7) 展望スペース

建物 2 階に展望スペースを整備します。展望スペースは 60 m²とします。

8) イベント広場

現状の広場スペース約 600 m²と同様の大きさのイベント広場を整備します。キッチンカー等の
自動車が乗入れできるスペースを整備します。

9) その他

防災倉庫は、現状 8.28 m²となっていることから、現状と同様の 9 m²とします。事務室、バック
ヤード、設備は適宜設置します。

10) 結果

導入施設ごとの現況と再整備の場合の面積を整理します。

ア 屋内施設

施設名	現況	再整備
トイレ	計：85.35 m ² 国：55.54 m ² 男小4器、男大3器、女5器、 バリアフリー1 市：29.81 m ² 男小2器、男大1器、女2器、 バリアフリー1	計：230 m ² 男小8器、男大6器、女15器 バリアフリー1、こども2 オストメイト男女各1
休憩施設・ 情報発信施設 観光振興施設	計：132.49 m ² （倉庫、授乳室含む）	計：200 m ²
物販施設	計：126.68 m ² 物産：102.68 m ² 農産物直売所：24 m ²	計：175 m ²
飲食施設	計：270 m ² レストラン：225.94 m ² （食品庫含む） 52席（図面上） 屋台市場：約45 m ² ※	計：560 m ² レストラン：約230 m ² フードコート：約330 m ²
展望スペース		60 m ²
その他		適宜
延床面積	約620 m ² （物産館の2階は除く）	約1,260 m ²

※Googleマップ上で測定したためおよその面積

イ 屋外施設

施設名	現況	再整備
駐車場	計：約4,500 m ² ※（通路含む、緑地除く） 国：約4,270 m ² ※ 小型31台、身障者2台、大型14台 市：約230 m ² ※（前面通路含む） 小型6台	計：5,696 m ² 小型120台、身障者3台、大型14台
イベント広場	約600 m ² ※	600 m ²

※Googleマップ上で測定したためおよその面積

6章 基本計画図

6-1 ゾーニング図

(1) 条件の整理

1) 屋外について

- ・ 駐車場は施設に寄せて、極力最短でアプローチできる配置とします。
- ・ サービスヤードは、利用者から目立たず、利用者の動線を妨げない位置へ配置します。
- ・ 浄化槽、プロパン庫、ごみ仮置場、受水槽、キュービクルを集約します。
- ・ 従業員駐車場を配置します。
- ・ 防災備蓄倉庫は屋外に配置します。
- ・ 駐車場のメイン出入口に施設名称サインを設置します。

2) 建物について

- ・ 建物に関しては、案Ⅰ（現位置）、案Ⅱ（移転先 B 地点）ともに同じ建物とします。

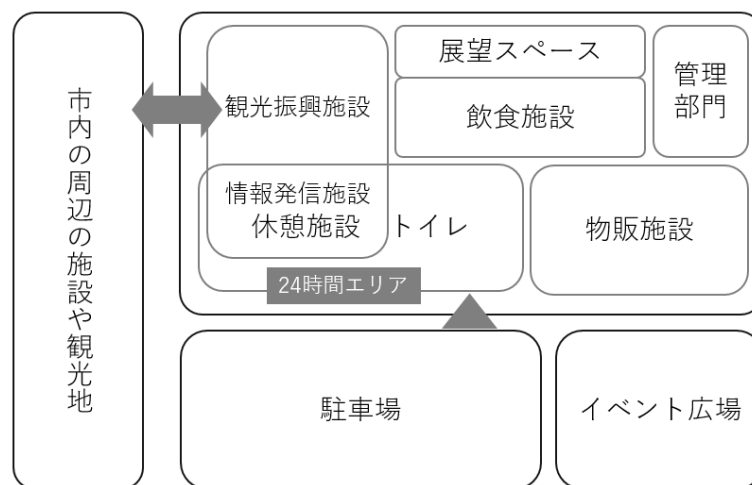
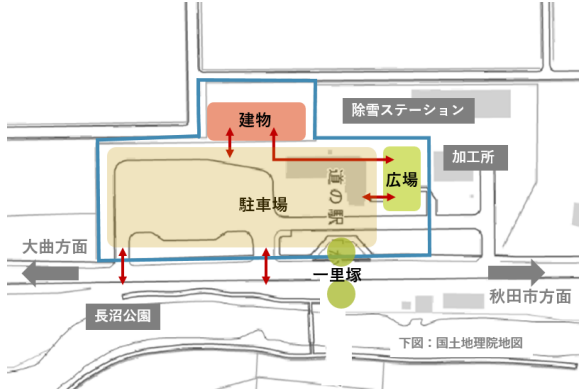
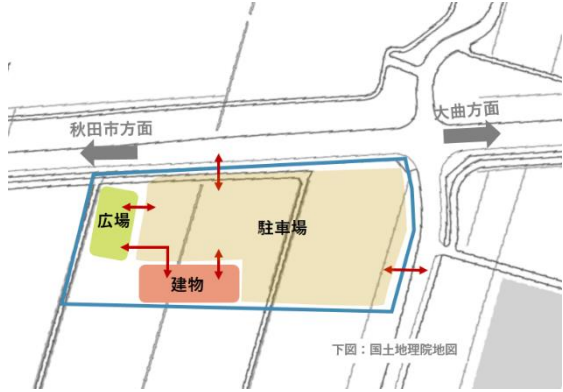


図 導入施設の相関図

(2) ゾーニング図

候補地比較で上位2つの「現位置」と「移転先B地点」について、ゾーニング図を作成し、各案のメリット・デメリットを整理します。

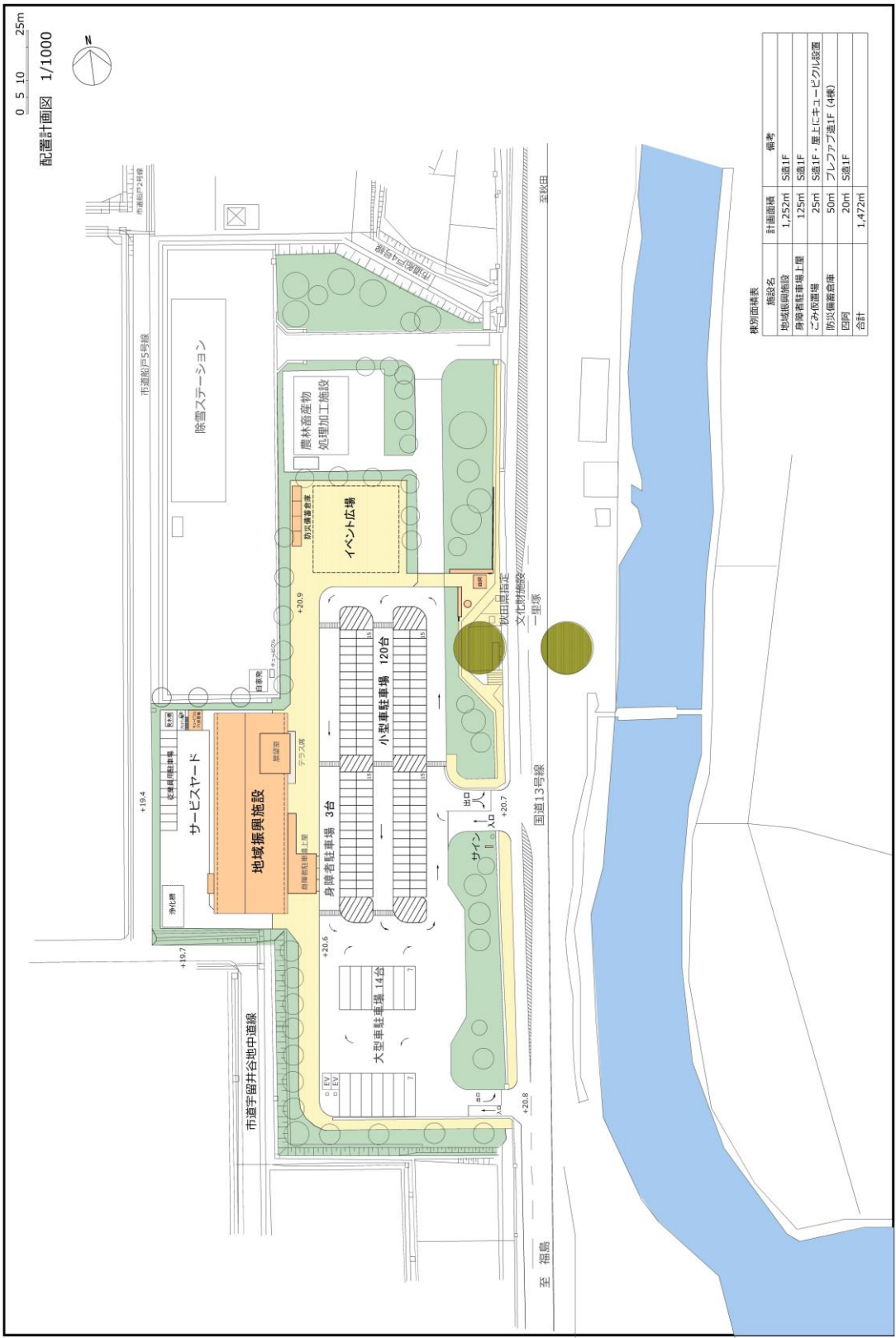
	案Ⅰ：現位置	案Ⅱ：移転先B地点
ゾーニング図		
メリット	・歴史的価値のある一里塚があり、シンボルとなります。今までと同じ場所に整備することで、馴染みのある場所・施設となります。 ・案Ⅱと比較して、用地買収を含めた手続き等にかかる時間や工期が短期化できる可能性があります。 ・案Ⅱと比較して、用地取得や造成工事等の整備費用が抑えられる可能性があります。 ・隣接する加工所との連携も考えられます。 ・整備工事と並行して営業可能です。	・周辺にかみおか温泉嶽の湯や神岡中央公園があり、周辺施設との回遊性が期待できます。 ・神岡地域のまちなかに近いところに位置するため、1 km圏内人口が約 800 人います。 ・整備工事と並行して営業可能です。
デメリット	・神岡地域のまちなかから離れたところに位置するため、1 km圏内人口が約 300 人です。 ・洪水浸水想定区域が 0.5～3.0m未満のエリアです。	・案Ⅰと比較して、用地買収を含めた手続き等にかかる期間や工期が長期化する可能性があります。 ・案Ⅰと比較して、用地取得費や造成工事等の整備費用が案Ⅰと比較して大幅に上昇する可能性があります。 ・洪水浸水想定区域が 0.5～3.0m未満のエリアです。

結果、メリットが多数挙げられた「現位置」が望ましく、優先的に「現位置」で検討を進めます。

6-2 基本計画図

案1（現位置）を基にして基本計画図を作成しました。

※今後、基本・実施設計で詳細な検討が必要です。



配置図

7章 事業手法

7-1 基本事項・考え方の整理

(1) 道の駅の設置者

「道の駅」の設置者は、市町村（行政）又はそれに代わり得る公的な団体に限られることから、行政が施設を整備し、行政が管理運営を行う「公設公営方式」、行政が施設を整備し、民間が管理運営する「公設民営方式」、民間が施設を整備し、管理を行う「民設民営方式」の3つの方式が考えられます。

整備運営方式	管理運営手法	主な運営主体
公設公営	行政直営	市町村（行政）
公設民営	指定管理者制、DBO方式※ ⁴	民間企業、第三セクター
民設民営	PFI方式※ ⁵	PFI受託者（SPC＝特定目的会社）

※公共施設等の建設、維持管理、運営等を行政と民間が連携して行うことにより、民間の創意工夫等を活用し、財政資金の効率的使用や行政の効率化等を図ることをPPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ）と呼びます。指定管理者制度やDBO方式、PFI方式など様々な方式があります。

(2) 従来方式と道の駅における整備手法

現状の道の駅かみおかの整備手法

業務範囲	従来方式	公設民営	DB方式※ ⁶	DBO方式	PFI方式
概要	地方自治体が設置と管理運営	地方自治体が設置、民間が管理運営	民間に建物の設計・建設を一括発注	民間に建物の設計・建設・維持管理・運営を一括発注	民間が資金調達を含めて設計・建設・管理等を行う
設計（Design）	公共	公共	民間	民間	民間
建設（Build）	公共	公共	民間	民間	民間
維持管理	公共	民間	公共	民間	民間
運営（Operate）	公共	民間	公共	民間	民間
資金調達	公共	公共	公共	公共	民間

※4：DBO方式とは公共が資金調達を負担し、民間事業者に設計・建設、維持管理及び運営を一括発注する方式です。公共が資金調達を負担するため、コスト縮減率が有利になりやすいことが特徴です。

※5：PFI方式（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）は、PPPの代表的な手法の一つです。公共施設等の設計・建設、維持管理及び運営に、民間の資金とノウハウを活用し、公共サービスの提供を民間主導で行い、効率化と公共サービスの質の向上を図る手法です。

※6：DB方式（デザインビルド）は、設計施工一括発注方式とも呼ばれ、民間事業者に設計・建設を一括発注する方式です。

（３）道の駅における整備手法

整備手法は、道路管理者と市町村などで整備する「一体型」と、市町村で全て整備を行う「単独型」の２種類があります。2025（令和７）年１月３１日時点、道の駅１,230 駅のうち、「一体型」が 678 駅（55%）、「単独型」が 552 駅（45%）です。

基本構想では、市の財政負担等を勘案し、道路管理者である国と市が共同で整備する「一体型」の整備の実現に向け、道路管理者等の関係機関と調整を進めることとしています。

7-2 事業手法及び整備効果の検討

（１）業務（事業）範囲の検討

道の駅かみおかの再整備事業について、建築物の設計や建設工事、工事監理、開館準備、維持管理等での民間事業者の参画は不可欠です。しかしそれ以上に、事業の目的やコンセプトの達成に向けて、観光案内や飲食・物販サービスの提供等の運営、地域活性化の起爆剤としてイベントの企画実施、事業・経営支援（出荷者組合による商品力強化や新商品開発、ブランド力向上、観光力強化、地域拠点としての強化等）について、民間ノウハウを取り入れた施設運営の重要性は増しています。

業務（事業）範囲については、民間事業者や地域団体等へのサウンディング等も踏まえた検討が求められます。

■（参考）業務（事業範囲）のイメージ案

業務項目	内容	実施	負担
設計	設計・各種調査・認可	民	市
解体工事	既存施設の解体工事	民	市
建設工事	建築・外構（備品調達含む）	民	市
工事監理	工事のモニタリング	民	市
開館準備	開館イベント、研修など	民	民
維持管理	道の駅部分の保守管理修繕	民	市
	物販・飲食部分の保守管理修繕	民	民
運営	総合マネジメント	民	民
	観光案内・情報発信	民	市
	特産物販売	民	民
	農産物直売所運営	民	民
	飲食提供	民	民
	イベント企画実施	民	民
経営支援	地域商社の事業・経営支援、観光・産業マネジメント	民	市
付帯事業	その他民間で整備実施するもの	民	民

（２）事業方式（PPP/PFI 等）の検討

PFI 方式では、個別案件の事情や発注者の目的に応じて、多様な事業方式を柔軟に使い分け、官民双方の創意工夫と協働により、質の高い公共施設等の整備を行うことができます。

１）事業費（施設整備費及び維持管理運営費）の回収方法による分類

公共施設の整備（大規模な修繕も含む）と完成後の維持管理・運営に要する費用の財源を何に求めるかの視点から整理したものが、下表の事業類型です。利用料金収入が全くなく全額が公共からのサービス対価で賄われるサービス購入型や、独立採算による事業など、多様な事業方式があります。

事業形態	事業費回収方法（民間事業者の収入）	主な対象施設の例
サービス購入型	公共サービスの提供に対して、公共（発注者）から支払われるサービス対価により事業費を回収	庁舎、学校施設、給食センター、公営住宅等
独立採算型	公共サービスの提供に対して、利用者からの使用料金収入や付帯事業収入のみで事業費を回収	空港、有料道路、上水道、駐車場など
混合型 （ジョイントベンチャー型）	サービス購入型と独立採算型を組み合わせたもので、公共からのサービス対価と利用者からの利用料金収入等で事業費を回収	博物館、美術館、体育館、音楽ホール、複合公共施設など

出典）自治体担当者のための PFI 実践ガイドブック

２）施設所有形態による分類

建設期間中と完成後の施設の所有関係によって PFI 事業は分類され、B=BUILD（建設）、T=TRANSFER（所有権の移転）、O=OPERATE（運営）、O=OWN（所有）、R=REHABILITATE（修繕）のアルファベットの頭文字をつなげて呼ばれます。

各方式にメリットがありますが、過去の多くの事業が BTO 方式で実施されています。これは、公共が施設を所有することで、公共の意思を事業に反映させやすく、民間にとっては固定資産税等の租税の負担がないため、公共と民間双方にメリットが大きいためです。

事業方式	概説
BTO （建設-所有権移転-運営）	・建設は、民間の所有であるが、建設後、公共に所有権が移転される。 ・公共が施設所有者であるため、施設所有に係るリスクは公共が分担する。 ・公共の所有物であるため、施設所有に対して非課税である。 ・PFI 方式の中で最も採用率が高い方式である。

（３）事業スケジュール

従来手法では、「基本構想」→「基本計画」→「基本設計・実施設計」→「工事」→「管理運営」の順番に進めるのに対し、PFI 方式では、「事業計画」→「特定事業の選定」→「事業者の選定」→「契約・事業実施」という括りで進めることになります。

また、PFI 方式では、基本構想及び基本計画策定後、施設整備の前に、マーケットサウンディングや導入可能性調査を行い、それらを踏まえた特定事業の評価・選定、事業者選定を経て、契約等の手続きが必要になることから、一般的には施設整備の前の準備期間に 2 年程度を要するといわれます。

（４）定性的な整備効果

PFI 手法導入検討における、定性的な評価基準と評価（案）を以下に示します。

項目	評価基準（例）	主な評価（案）
法令上の制約	設置主体や管理主体の制限等、法令上民間事業者が事業主体になることが制限されていないこと。	○：PFI 法により、道の駅は PFI 事業の実施が可能な施設
民間の事業 参入可能性	民間に同種・類似の業務が存在しており、多くの民間事業者の参入が見込まれること。	▲：PFI 法については、国や秋田県においても、積極的に導入するよう働きかけており、民間側でも制度の研究や情報収集に努める事業者が増えている。 実際には、サウンディング調査等による導入意向の把握が求められる
民間ノウハウ の活用可能性	施設内容や運営部分に民間事業者が自らのノウハウを活用して、創意工夫できる範囲が広く、効率的・効果的なサービス提供が可能であると見込まれること。	○：産直施設、物販施設、飲食スペースなど、建設及び維持管理における民間ノウハウの活用の可能性は高い
民間に期待する 成果の明確性	民間事業者に委ねるサービス内容、達成すべき数量的なサービス水準が明確に規定できること。	○：設計や建設、維持管理に係る業務について、民間事業者に委ねるサービスの内容や水準を明確に規定することは可能である
国やほかの地方 公共団体にお ける導入実績	国やほかの地方公共団体による導入事例があること。	○：道の駅整備による、PFI 方式の導入実績がある
時間的余裕の 有無	PPP 等（特に PFI 方式）で実施した場合に想定されるスケジュールで支障がないこと。	▲：従来型に比べ、PFI 方式とした場合、2 年程度開業が遅れる

（５）定量的な整備効果

PFI 手法導入検討において、定量的な整備効果（評価の視点）の主な基準として、財政支出削減率（VFM）による効果測定が一般的です。

VFM（VALUE FOR MONEY バリュフォーマネー）とは、支払いに対して価値の高いサービスを提供するという考え方で、「従来型手法」による事業費（PSC^{※7}）と、官民連携により「候補となる PFI/PPP 手法」による事業費（PFI-LCC^{※8}）について、以下の費用の差額から計算し、優位な整備手法を検討します。道の駅の先行事例をみると、VFM は 3～10%程度の効果がみられます。

- ・ 公共施設等の整備・運営等の費用
- ・ 利用料金収入
- ・ 調査に要する費用
- ・ 資金調達に要する費用
- ・ 税金
- ・ 民間事業者の適正な利益及び配当（税引後損益）

※ 7：PUBLIC SECTOR COMPARATOR は、従来方式として実施する場合の事業期間全体を通じた財政負担の見込額のことです。

※ 8：PFI-LIFE CYCLE COST は、公民連携手法として実施する場合の事業期間全体を通じた財政負担のことです。

（６）事業手法別の比較とまとめ

従来の公設公営方式では地方自治体による負担が続くことや、民間の創意工夫を採用しにくいことが推察されます。一方、民設民営の PFI 方式^{※9}や公設民営の DBO 方式^{※10}は、従来型に比べて、総事業費の削減が期待されるものの、事業期間が長期化することやそれに伴うリスクの発生、地方都市における民間事業者の確保が困難なことなどが推察されます。こうしたことを踏まえ、今回の道の駅かみおかの再整備においては、「公設民営方式」が優位な方式であると考えられます。

整備 運営 方式	従来方式 (公設公営)	公設民営 (指定管理者制度)	公設民営 DBO 方式	民設民営 PFI 方式
メリ ット	・ 公的資金で安定調達が可能	・ 運営効率化によりコスト削減が可能	・ 一括発注で総事業費の削減が可能	・ 民間資金活用で財政負担軽減
	・ 公共性が担保	・ 公共性の維持が可能		
	・ 地方自治体主導で計画的に進行	・ 民間による効率的な運営やサービスが可能	・ 設計から運営まで民間による効率的な運営が可能	・ 設計から運営まで民間による効率的な運営が可能
デ メ リ ット	・ 設計、建設、維持管理、運営などの各工程で契約手続きが必要	・ 設計や建設などの工程で契約手続きが必要		・ 導入可能性調査や特定事業選定までの手続きにコストと時間がかかる
	・ 管理運営費の負担が続く	・ 監督責任が残る地方自治体にとっての負担が続く		・ 利益優先になり、一部の公共サービスが犠牲になる可能性あり
			・ 事業期間が長期化する可能性あり	
			・ 長期的な事業に伴うリスクが発生	
			・ 地方では、民間事業者の確保が課題	

※9：PFI方式において、運営事業者を設計・施工の全段階から関与させる手法をEOI（Early-Operator-Involvement）方式と呼びます。これは、建設工事で普及しているECI方式（Early Contractor Involvement）の考え方を応用したもので、運営の自由度が比較的高い「道の駅」などで活用されています。この方法は、1事業者に一括発注するPFI事業とは異なり、整備内容の検討段階（事業契約前）から運営事業者を関与させ、そのノウハウ等を最大限に活用できるメリットがあります。ただし、改めて設計、施工者を選定する必要があるなど、本来PFI方式の特徴である性能規定・包括発注を活かしきれないという面もあります。

※10：DB方式もあるが、DBO方式よりも従来方式（公設公営）に近いので、比較からは割愛します。

7-3 今後の検討課題の整理

1) 再整備に向けた施設配置計画の検討

道の駅かみおかの再整備に向けて、分散する「農産物直売所」と「神岡物産館」の一体的な配置や「駐車場」、「トイレ」、「情報発信機能」などの整備、「地域交流機能」や「防災機能」を含め、道の駅を訪れた方にとって利用しやすく、リピートしたくなるゾーニング計画や平面図の作成が求められます。

2) 農産物等商品の供給体制の検討

道の駅かみおかでは、分散する「農産物直売所」と「神岡物産館」の一体的な整備や、売り場面積の拡大などに向けた配置計画が必要ですが、農産物等商品の供給体制づくりも不可欠です。

需要に応じた産品について一年を通じて安定した種類、数量、品質で供給できる（仮称）出荷者組合の設立、組合員を対象とした出荷のルールや心得などの情報共有、本道の駅のブランドイメージを確立する意識の醸成を図るとともに、ほかの民間事業者との連携等を踏まえた、計画的な出荷体制の構築が求められます。

8章 事業実施に向けて

8-1 概算費用

(1) 概算事業費

現位置で整備した場合の概算事業費は以下のとおりです。

造成面積は約 1,800 m²と想定しています。なお、今後の調整等により変更になる可能性があります。

項目		数量	税抜単価	税込金額(万円)
建物工事	地域振興施設	1,252m ²		101,100
	振興施設	1,112m ²	700,000 円/m ²	(85,700)
	トイレ部分	140m ²	1,000,000 円/m ²	(15,400)
	その他設備等	1式		18,300
既存施設解体工事		750m ²	50,000 円/m ²	4,200
用地取得費		1,800m ²	5,000 円/m ²	1,000
造成工事		1,800m ²		2,700
舗装工事		15,748m ²	5,000 円/m ²	8,700
合計			(税込) 約 13億6,000万円	

※建物工事は過去実績から工事費の上昇率を加味した単価で算出しています。

既存施設解体工事の杭撤去については、今後の実施設計において、最適な方法を検討します。

造成工事は盛土 3mと想定し、沈下対策や改良工事を含めず、施工パッケージを参考に算出しています。

給排水設備工事は含んでいません。別途、検討が必要です。

（２）活用の可能性がある支援メニュー

道の駅の整備に関して、各省庁は様々な支援を行っています。国土交通省の道の駅案内で公開されている道の駅の整備支援メニューの中から、道の駅かみおかで活用の可能性がある支援メニューと具体的な支援内容を整理します。

表 支援メニューと適用内容

省庁	支援メニュー	適用の可能性
国土交通省	インバウンド受入環境整備高度化事業	観光地における無料公衆無線LAN環境の整備、キャッシュレス決済対応等の整備を支援する。
	インバウンド安全・安心対策推進事業	災害時の観光施設等における避難所機能の強化、多言語対応機能の強化の整備を支援する。
	地方部での滞在促進のための地域周遊観光促進事業	旅行者の地域周遊・長期滞在の促進を目的とした、情報発信・プロモーション等の取組みを支援する。
	地域観光魅力向上事	観光分野の専門家によるアドバイス等を通じた観光コンテンツの磨き上げや商品化を支援する。
内閣府	新しい地方経済・生活環境創生交付金(第2世代交付金)	地方公共団体の自主性と創意工夫に基づく、地域の多様な主体の参加を通じた地方創生に資する地域の独自の取組みを支援する。
総務省	緊急防災・減災事業債(地方債)	非常用電源の整備や防災資機材等備蓄施設の整備を支援する。
農林水産省	農山漁村振興交付金(地域資源活用価値創出対策)	地域資源を活用した新商品・サービス開発等に必要な費用、交流施設、特産物直売所及びレストラン等の整備を支援する。
	木材製品の消費拡大対策	CLTを活用した建築物の実証、JAS構造材の利用実証や外構部等の木質化の実証等を支援する。
	建築用木材供給・利用強化対策	建築用木材の利用実証・普及等を通じた都市の木造化等促進、木造標準モデルの開発・普及等を通じた製材やCLT・LVL等の建築物への利用環境整備等を支援する。
経済産業省	①クリーンエネルギー自動車導入促進補助金・②クリーンエネルギー自動車の普及促進に向けた充電・充電インフラ等導入促進補助金	2050年カーボンニュートラルの実現に向けた対応として、電気自動車等の普及、充電・充電インフラ整備等を支援する。
環境省	地域レジリエンス・脱炭素化を同時実現する公共施設への自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業	公共施設等への再生可能エネルギー設備等の導入を支援し、平時に加え災害時にもエネルギー供給等の機能発揮を可能とする事業を支援する。

出典) 国土交通省「各省庁の「道の駅」支援メニュー (R7 年度版)」

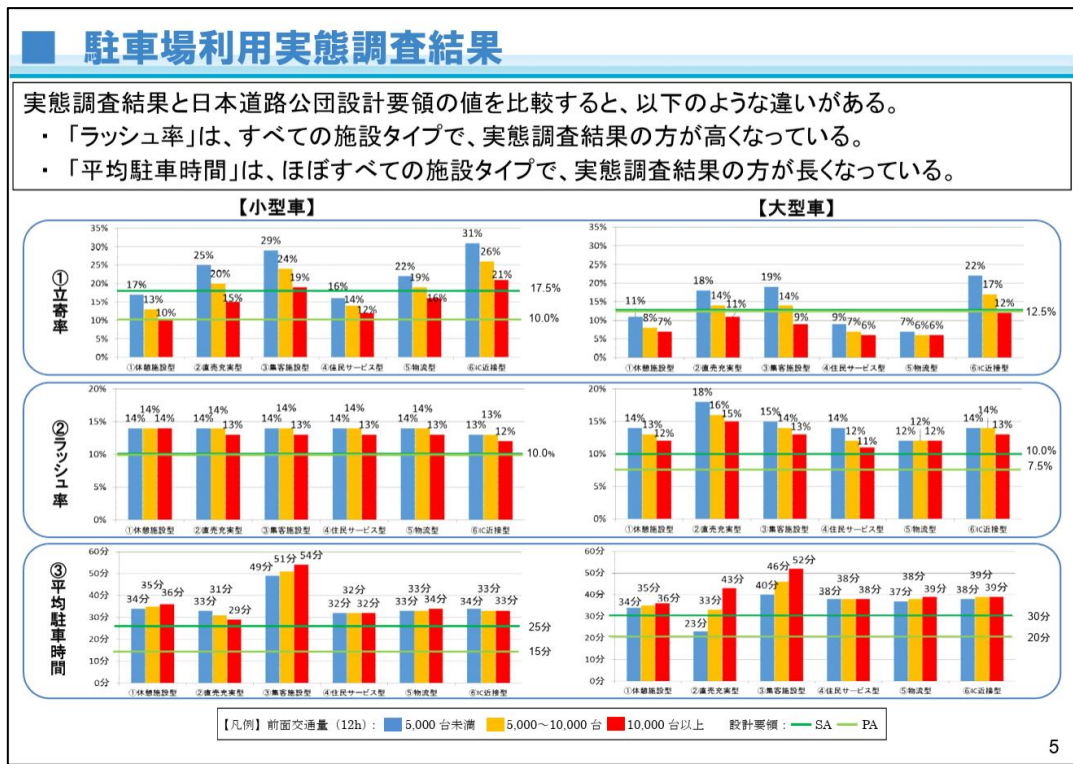
(3) 年間目標利用者数と運営維持管理費の見込額

1) 年間目標利用者数

道の駅かみおかの再整備による年間目標利用者数については、国交省で公表している「道の駅 駐車台場利用実態調査結果」等を参考に設定します。

(1) 調査概要						
○「道の駅」246駅を対象に実態調査(H28～30)を実施						
・道路交通量調査(道の駅前面の交通量をカウント) ⇒前面道路交通量を把握 ・立寄調査(道の駅へ立ち入る車両をカウント) ⇒立寄率・ラッシュ率を把握 ・車籍調査(ナンバープレート調査) ⇒駐車時間を把握						
(2) 分類の考え方						
○「道の駅」が有する集客施設等の有無や物販施設での売り上げ・規模等により以下の6つに分類						
タイプ	①休憩施設型	②直売充実型	③集客施設型	④住民サービス型	⑤物流型	⑥IC近接型
分類の考え方 (特徴)	最小限の施設を有する「休憩のための」道の駅	直売所等の売り上げや規模が大きい道の駅	「温泉施設」「体験施設」「キャンプ場」等、それ自体が目的地となる施設を有する道の駅	「会議室・集会所」「広場」「病院・診療所」「防災体験・展示室」「役所機能」等、地域の方々へのサービス施設を有する道の駅	大型車利用が多い道の駅 (大型混入率20%以上)	IC近傍(約2km)にある道の駅
調査サンプル数 (n=246駅)	74駅	20駅	57駅	25駅	35駅	35駅

4



5

図 道の駅の駐車場に関する調査結果の抜粋

出典) 新「道の駅」のあり方検討会 配付資料

今回の道の駅かみおかの再整備では、地域住民が利用できる明るく広い休憩施設や集会スペース、各種イベントや市民活動の発表ができる広場等の整備を行うこととしており、これにより、道の駅の分類は、これまでの「休憩施設型」から「住民サービス型」相当へと移行するものと考えられます。

「道の駅駐車台場利用状況調査結果」では、【小型車】で前面交通量 10,000 台以上の場合の立寄率は次のとおりとなっており、「休憩施設型」から「住民サービス型」へ移行することで立寄率は 2% 上昇することが見込まれます。

①休憩施設型 10%	②直売充実型 15%	③集客施設型 19%
④住民サービス型 12%	⑤物流型 16%	⑥IC 近接型 21%

この移行に伴う立寄率上昇の考え方をを用いると、道の駅かみおかの増加利用者数は年間 183,164 人と算定されます。

・ 1 日あたりの小型車増加立寄台数
同駅の前面道路小型車交通量 11,405 台/日 × 立寄率の上昇分 2% = 228.1 台/日
・ 1 日あたりの増加利用者数
228.1 台/日 × 小型車の平均乗車人数 2.2 人/台 = 501.8 人/日
・ 年間の増加利用者数 501.8 人/日 × 365 日 = 183,164 人/年

このことから、「道の駅駐車台場利用状況調査結果」に基づく同駅の再整備後の年間利用者数は、2024（令和 6）年度の利用者数 186,594 人と、増加利用者数 183,164 人を合算した約 370,000 人と推計されます。この利用者数は、2024（令和 6）年度の同駅利用者数の約 2 倍にあたる人数となります。

今回の道の駅かみおか再整備では、この推計利用者数を年間目標利用者数として設定することとし、主要課題である施設・設備の経年劣化への対応、直売所・屋台市場等の施設面積不足・駐車場不足の解消などに取り組み、既存利用者の満足度を向上させ再来訪機会を増加させるとともに、「地方創生・観光を加速する拠点（第 3 ステージ）」の実現に向けた機能強化として地域連携機能や情報発信機能などを大幅に拡充させることにより、多くの新規利用者とリピーターの創出を図り、当該目標の達成を目指すこととします。

道の駅かみおか再整備後における年間目標利用者数 370,000 人

2) 運営維持管理費

2024（令和6）年度事業報告書に記載のある一般管理費を参考に運営維持管理の見込み額を試算します。結果、**2024（令和6）年度の一般管理費の約1.6倍にあたる約7,000万円と試算**されました。

表 増減の基準

要因	R6年度	計画案	増減
1 延床面積による変化	620㎡	1,252㎡	202%
2 利用者数による変化	186,594人	370,000人	198%
3 雇用者数による変化※	9名	18名	200%
4 現状維持	-	-	-

※延床面積と利用者数が約2倍になることから、パートアルバイトが2倍になると想定

出典) R6 年度利用者数 : KDDI Location Analyzer

表 運営維持管理費の見込み額

単位: 万円

項目	R6年度実績	見込み額	備考
人件費等	2,891	4,572	雇用者数による変化(200%増加)
水道光熱費	566	1,143	延床面積による変化(202%増加)
消耗品費等	145	288	利用者数による変化(198%増加)
保守費・修繕維持費	78	158	延床面積による変化
業務委託料	210	424	延床面積による変化
その他費用	373	373	現状維持
合計 約	4,300	7,000	(減価償却費は除く)

出典) 実績 : R6 年度事業報告書

8-2 スケジュール

現位置で整備した場合のスケジュールは以下のとおりです。なお、今後の調整等により変更する可能性があります。

項目		2025 (R7) 年度				2026 (R8) 年度				2027 (R9) 年度				2028 (R10) 年度			
用地	収用申請・決定																
	用地売買契約(本契約)・登記変更																
造成	造成基本・実施設計委託																
	造成工事																
建物	建物基本・実施設計委託																
	建物工事																
	外構工事																
完成	開業に向けた準備																
	供用開始																

8-3 整備に向けた留意点

1) 導入施設や配置・平面図の詳細検討

基本設計に向けて敷地の地質調査や測量が必要となります。また、建物建設に並行して、既存施設は営業可能と考えられ、具体的な解体工事の検討を行う必要があります。積雪対策として駐車場に堆雪ヤードの計画や除雪方法の検討が必要です。平面計画については、管理者やテナントなどの要求に沿った計画を行う必要があります。

2) 観光振興拠点・地域連携に向けた検討

周辺施設や観光地との連携を強化し、市内の回遊性を向上させるため、地域を PR するための具体的な内容を検討する必要があります。そのためには、計画段階から市内のほか関連施設や団体から意見を伺い、協議をする必要があります。

また、地域コミュニティの拠点づくりに向けた検討や地域住民からバス停の要望があれば、バス停の設置を検討します。

3) 農産物等商品の供給体制

道の駅かみおかでは、農産物等商品の供給体制の構築も不可欠です。一年を通じて安定した種類、数量、品質で供給できる（仮称）出荷者組合の設立、組合員を対象とした出荷のルールや心得などの情報共有、道の駅のブランドイメージを確立する意識の醸成を目指し、ほかの民間事業者と連携を図る必要があります。

道の駅かみおか再整備事業基本計画

2025（令和7）年9月

大仙市 観光文化スポーツ部 観光施設課
〒014-8601 秋田県大仙市大曲花園町1-1
TEL 0187-63-1111